

# 北海道農業・農村をめぐる情勢

令和6年2月  
北海道農政部

# 目 次

|      |                        |     |
|------|------------------------|-----|
| 1    | 北海道農業・農村の特徴            | P1  |
| 2    | 北海道の農畜産物の全国的な位置づけ      | P2  |
| 3    | 北海道の食料自給率              | P3  |
| 4    | 北海道農業・農村の動向            | P4  |
| (1)  | 農業産出額の推移               | P4  |
| (2)  | 北海道農業と関連産業の関係          | P5  |
| (3)  | 北海道農業の地域別特性            | P6  |
| (4)  | 耕地面積等の推移               | P7  |
| (5)  | 主要農畜産物の生産状況            | P8  |
| (6)  | 多様な担い手と人材の推移           | P18 |
| (7)  | 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立    | P20 |
| (8)  | 国内外の食市場を取り込む高付加価値農業の推進 | P21 |
| (9)  | 多様な人材が活躍する農業・農村の確立     | P22 |
| (10) | 道民の理解に支えられる農業・農村の確立    | P23 |

# 1 北海道農業・農村の特徴

- 本道では全国の1/4の耕地面積を活かし、稲作、畑作、酪農などの土地利用型農業を中心とした生産性の高い農業を展開。
- 1農業経営体当たりの経営耕地面積は33.1haと都府県の13.1倍、主業農家の割合は75.3%と都府県の3.7倍であり、大規模で専門的な経営を展開。

## 北海道農業の全国シェア

| 区分    | 単位   | 北海道    | 全国     | シェア   | 年次 |
|-------|------|--------|--------|-------|----|
| 耕作面積  | 千ha  | 1,141  | 4,325  | 26.4% | R4 |
| 農業経営体 | 千経営体 | 33     | 975    | 3.4%  | R4 |
| 個人経営体 | 千経営体 | 28     | 935    | 3.0%  |    |
| 主業    | 千経営体 | 21     | 205    | 10.2% |    |
| 準主業   | 千経営体 | 1      | 126    | 0.8%  |    |
| 副主業   | 千経営体 | 6      | 604    | 1.0%  |    |
| 販売農家  | 千戸   | 32     | 868    | 3.7%  | R4 |
| 農業産出額 | 億円   | 12,919 | 90,147 | 14.3% | R4 |
| 耕種    | 億円   | 5,384  | 54,909 | 9.8%  |    |
| 畜産    | 億円   | 7,535  | 34,673 | 21.7% |    |

## 販売金額1位の部門別経営体数(農林業センサス)

| 区分                | 単位 | 北海道    | 全国      | 年次 |
|-------------------|----|--------|---------|----|
| 水稻                | 戸  | 8,488  | 542,785 | R2 |
| 畑作(麦、いも、豆、工芸作物)   | 戸  | 8,065  | 55,021  |    |
| 園芸(露地、施設、果樹、花き)   | 戸  | 9,164  | 331,795 |    |
| 酪農                | 戸  | 5,368  | 12,836  |    |
| 肉用牛               | 戸  | 1,471  | 28,027  |    |
| その他(養豚、養鶏、養蚕、その他) | 戸  | 985    | 7,645   |    |
| 計                 | 戸  | 33,541 | 978,109 |    |

## 本道と都府県の農家の比較

| 区分                                | 単位 | 北海道(a) | 都道府県(b) | a/b  | 年次 |
|-----------------------------------|----|--------|---------|------|----|
| 1農業経営体当たり経営耕地面積                   | ha | 33.1   | 2.3     | 14.4 | R4 |
| 担い手への農地集積率                        | %  | 91.6   | 48.0    | 1.9  | R4 |
| 農業経営体-個人経営体<br>65歳未満の割合(基幹的農業従事者) | %  | 59.9   | 28.1    | 2.1  | R4 |
| 主業農家率                             | %  | 75.3   | 20.2    | 3.7  | R4 |
| 農業経営体に占める法人経営体の割合                 | %  | 13.3   | 3.0     | 4.5  | R4 |
| 1戸当たり                             |    |        |         |      |    |
| 乳用牛飼養頭数                           | 頭  | 152.2  | 67.8    | 2.2  | R4 |
| 乳用種肉用牛飼養頭数                        | 頭  | 927.3  | 277.5   | 3.3  |    |
| 肉専用種肉用牛飼養頭数                       | 頭  | 105.5  | 44.1    | 2.4  |    |

## 北海道農業と全国農業の比較

| 区分               | 単位 | 北海道(a) | 都道府県(b) | a/b | 年次 |
|------------------|----|--------|---------|-----|----|
| 1農業経営体(個人+法人)当たり |    |        |         |     |    |
| 農業粗収益            | 千円 | 45,229 | 10,769  | 4.2 | R3 |
| 農業所得             | 千円 | 5,630  | 1,254   | 4.5 |    |

## 全製造業に占める食料品製造業の出荷額のシェア

| 区分      | 全国   | 北海道   |
|---------|------|-------|
| シェア(R3) | 9.1% | 37.0% |

資料: 農水省「耕地及び作付面積統計」、「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、「畜産統計」、「農業経営統計調査-営農類型別経営統計」等

注1: 「農業産出額」の全国の数値は、都道府県合計値。

注2: 「販売金額1位の部門別販売農家数」の区分欄の「畑作(麦、いも、豆、工芸作物)」及び「園芸(露地、施設、果樹、花き)」は、本道農業の実情に合わせて整理。

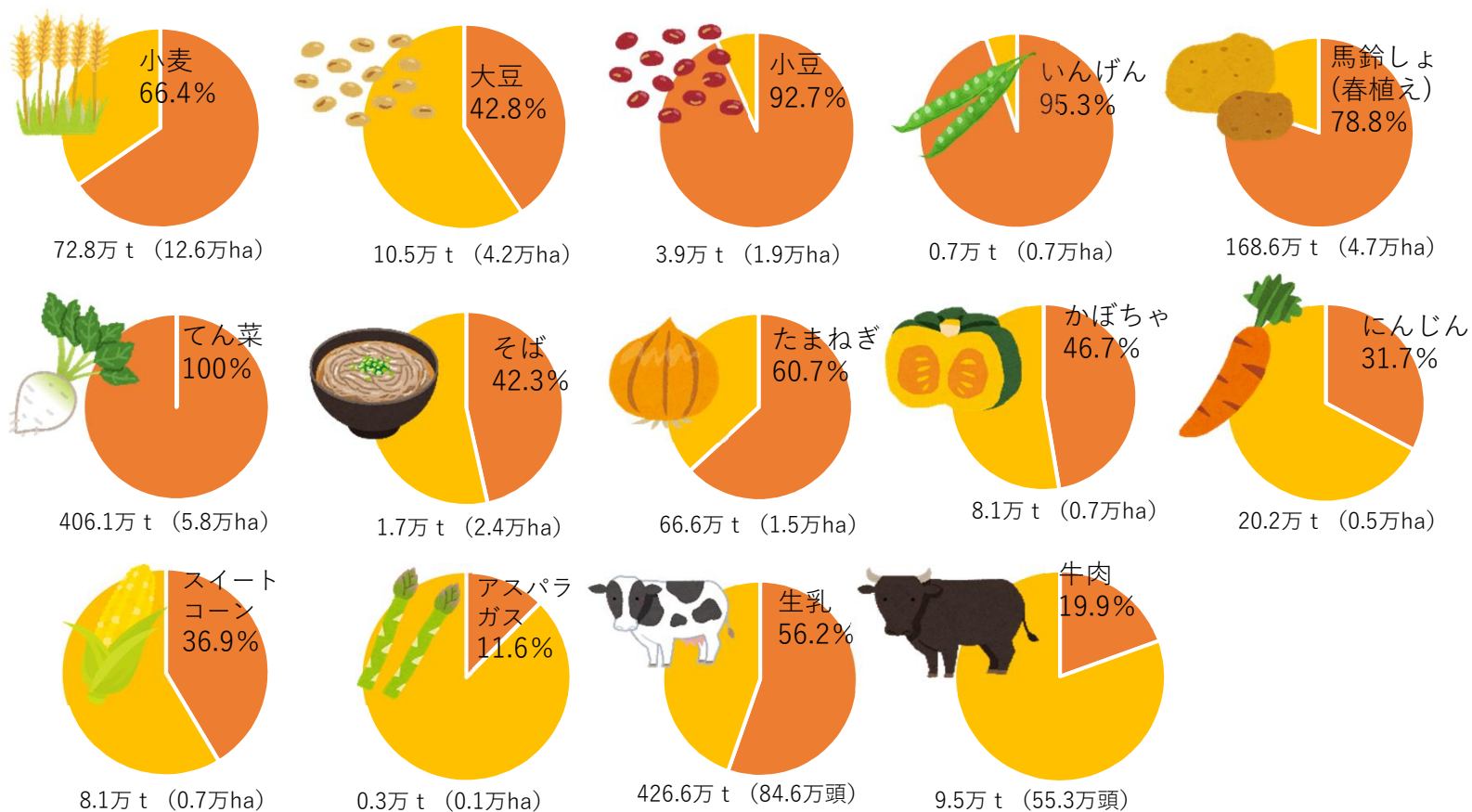
注3: 「担い手への農地集積率」における都府県の数値は、令和4年度の全国集計値をもとに、道で試算。

「担い手」には、認定農業者(特定農業法人含む)のほか、基本構想水準到達者、特定農業団体、集落内の営農を一括管理・運営する集落営農を含む。

## 2 北海道の農畜産物の全国的な位置づけ

○ 本道は、我が国有数の食料供給地域であり、多くの農畜産物で全国1位の生産量となっている。

■ 生産量で北海道が全国1位の主な農畜産物（令和3年(2021年)） ※カッコ内は作付面積又は飼養頭数



資料:農林水産省「作物統計」、「牛乳乳製品統計」、「畜産統計」、「食肉流通統計」

### 3 北海道の食料自給率

- 本道のカロリーベースの食料自給率は223%。都府県で100%を超えているのは、東北を中心とした5県のみ。
- 本道の生産額ベースの食料自給率は220%。本道よりも高い宮崎県などは、収益性の高い品目の生産が多い。
- 本道の農林水産業は、国産供給熱量の約2割を占め、我が国における食料の安定供給に大きく貢献。

■ 主な都道府県の食料自給率  
(令和3年度(2021年度))

(単位:%)

|     | 食料自給率   |         |
|-----|---------|---------|
|     | カロリーベース | 生産額ベース  |
| 全国  | 38 (38) | 63 (58) |
| 北海道 | 223     | 220     |
| 青森  | 120     | 240     |
| 岩手  | 108     | 197     |
| 秋田  | 204     | 138     |
| 山形  | 147     | 175     |
| 新潟  | 109     | 100     |
| 宮崎  | 64      | 286     |
| 鹿児島 | 79      | 271     |

資料:農林水産省「食料需給表」、「都道府県別食料自給率」

※ 全国は確定値。道県は概算値

※ 全国の( )は令和4年度(2022年度) (概算値)

■ 国産供給熱量に占める北海道の割合  
(令和3年度(2021年度)概算)

(国民1人・1日当たり)

| 総供給熱量     | 国産供給熱量  |          |               |
|-----------|---------|----------|---------------|
|           | A<br>全国 | B<br>北海道 | C<br>割合 (B/A) |
| 2,266kcal | 861kcal | 209kcal  | 24%           |

資料:道農政部推計

農林水産省「食料需給表」、「都道府県別食料自給率」等

総務省「人口推計」

国産供給熱量

全 国 A = 総供給熱量 × 全国の食料自給率 (カロリーベース)

北海道 B = ①北海道産供給熱量 × ②北海道総人口 ÷ ③全国総人口

① : 総供給熱量 × 北海道の食料自給率 (カロリーベース)

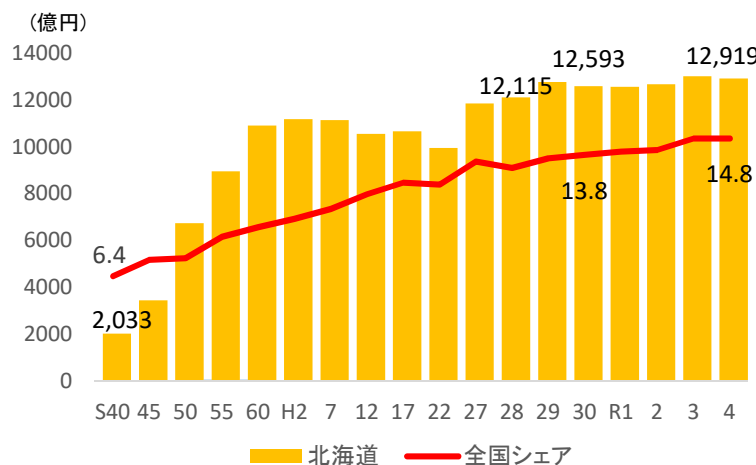
②、③: 総務省「人口推計」 (令和3年 (2021年) 10月1日現在)

# 4 北海道農業・農村の動向

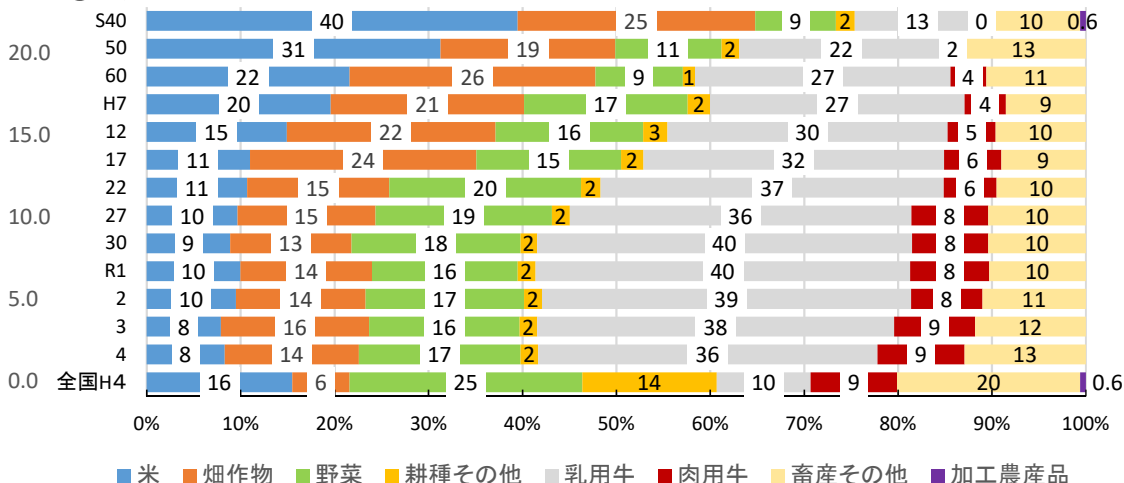
## (1) 農業産出額の推移

- 本道の農業産出額は近年1兆2千億円を上回って推移。令和4年(2022年)は1兆2,919億円。
- 全道の農業産出額の構成比では、乳用牛や野菜が大きい。

### ① 本道の農業産出額と全国シェア



### ② 農業産出額の構成比



### ■ 品目毎の農業産出額(R4)

|    | 品目  | 北海道 (億円) | 全 国 (億円) | シェア   | 順位 |
|----|-----|----------|----------|-------|----|
| 耕種 | 米   | 1,067    | 14,015   | 7.6%  | 2  |
|    | 麦類  | 423      | 663      | 63.8% | 1  |
|    | 雑穀  | 37       | 86       | 43.0% | 1  |
|    | 豆類  | 362      | 731      | 49.5% | 1  |
|    | いも類 | 543      | 2,123    | 25.6% | 1  |
|    | 野菜  | 2,228    | 22,298   | 10.0% | 1  |
|    | 果樹  | 83       | 9,232    | 0.9%  | 26 |
|    | 花き  | 126      | 3,493    | 3.6%  | 8  |
|    | その他 | 515      | 2,268    | 22.7% | —  |
|    | 小計  | 5,384    | 54,909   | 9.8%  | 1  |
| 畜産 | 乳用牛 | 4,660    | 8,844    | 52.7% | 1  |
|    | 肉用牛 | 1,203    | 7,912    | 15.2% | 2  |
|    | 豚   | 550      | 6,775    | 8.1%  | 2  |
|    | 鶏   | 376      | 10,162   | 3.7%  | 8  |
|    | その他 | 746      | 979      | —     | —  |
|    | 小計  | 7,535    | 34,672   | 21.7% | 1  |
|    | 合計  | 12,919   | 89,581   | 14.4% | 1  |

資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

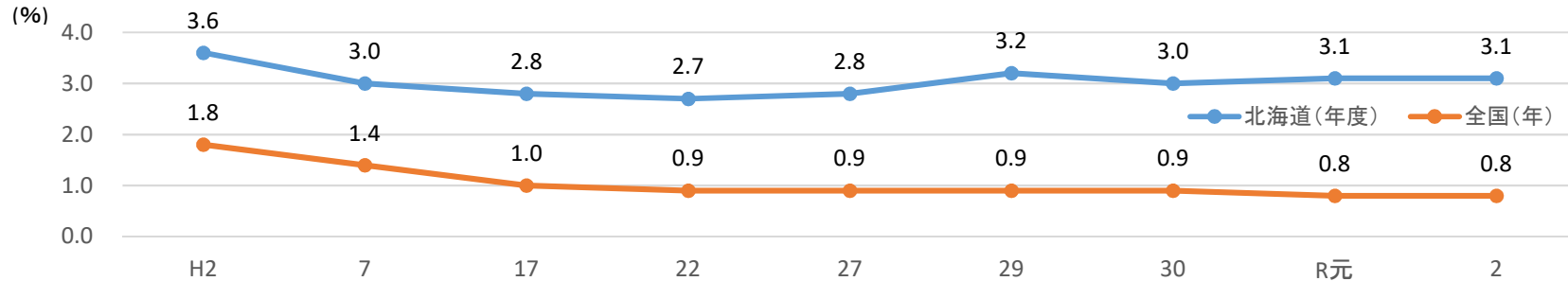
注: 平成19(2007年)年より、水田・畑作経営所得安定対策の導入等による集計方法の変更があり、それ以前の数値と連動はない。

## (2) 北海道農業と関連産業の関係

- 道内総生産に占める農業総生産の割合は、令和2年(2020年)で3.1%となっており、国内総生産に占める農業総生産の0.8%に比べ2.3ポイント高い。
- 道内産業別製造品出荷額等における食品工業(※)の構成比は、令和3年(2021年)で42.1%となっており、全国の12.0%に比べ30.1ポイント高い。

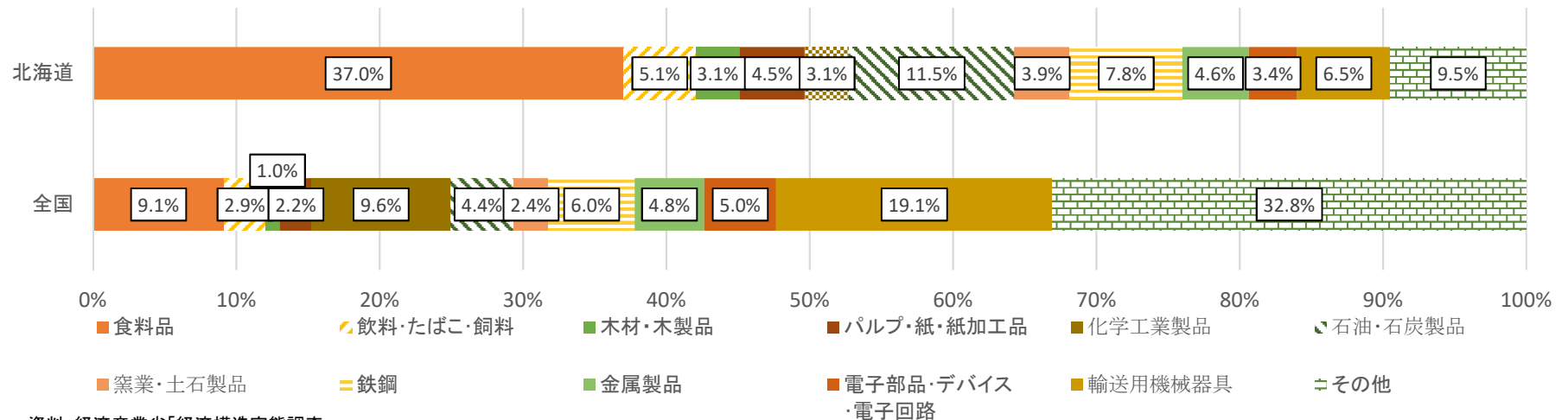
※食品工業:食料品製造業及び飲料・たばこ・飼料製造業

### ■ 国(道)内総生産に占める農業総生産の割合



資料:農林水産省「農業・食料関連産業の経済計算」、北海道経済部「道民経済計算」注1)国内総生産は暦年、道内総生産は年度の統計数字

### ■ 産業別製造品出荷額等の構成比(令和3年(2021年))



資料:経済産業省「経済構造実態調査」

### (3) 北海道農業の地域別特色

○ 北海道は地形的に大きな広がりを持ち、気象や立地条件などが地域によって異なることから、それぞれの地域において特色ある農業が展開。

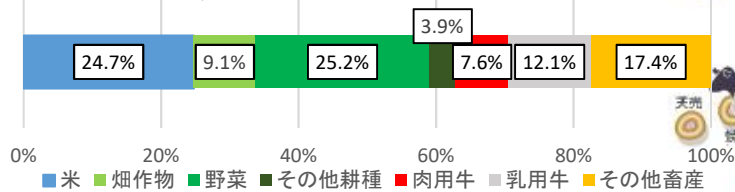
#### 道央地帯

[空知・石狩・胆振・日高・上川・留萌]



この地帯では、稲作を中心に、野菜や軽種馬、肉用牛など地域の特色を生かした農業が行われています。

農業産出額 4,166.2億円 (R3)



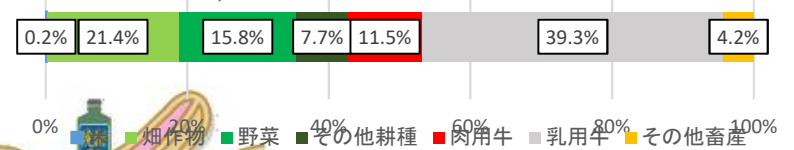
#### 道東(畑作)地帯

[オホーツク・十勝]



この地帯では、麦類、豆類、てん菜、馬鈴しょを中心とした大規模で機械化された畑作や酪農畜産が行われています。

農業産出額 5,387.7億円 (R3)



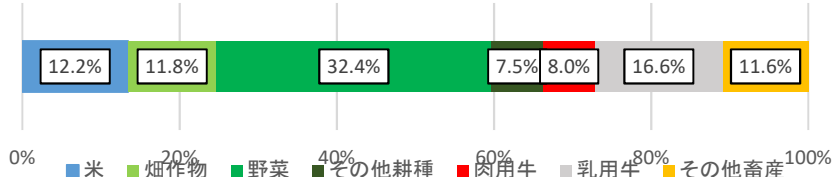
#### 道南地帯

[後志・渡島・檜山]



この地帯では、稲作や施設園芸、畑作、果樹など集約的な農業が行われています。

農業産出額 981.7億円 (R3)



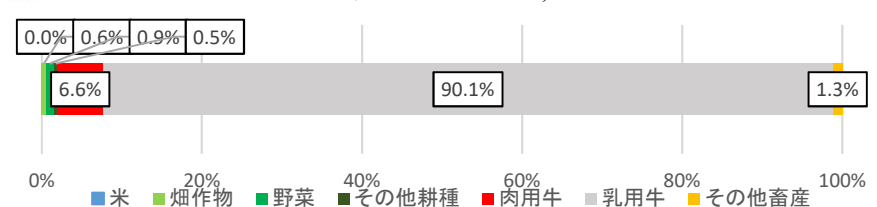
#### 道東(酪農)・道北地帯

[宗谷・釧路・根室]



この地帯では、冷涼な気候を活かしたEU諸国に匹敵する大規模な草地型酪農が展開されています。

農業産出額 2,570.3億円 (R3)



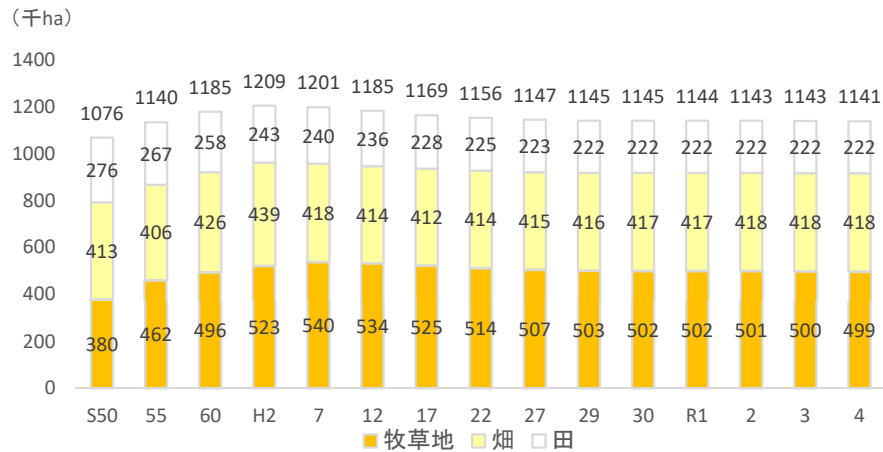
資料: 農林水産省「市町村別農業産出額」を基に道で推計。注: R4年の市町村別数値は、R6年3月下旬公表



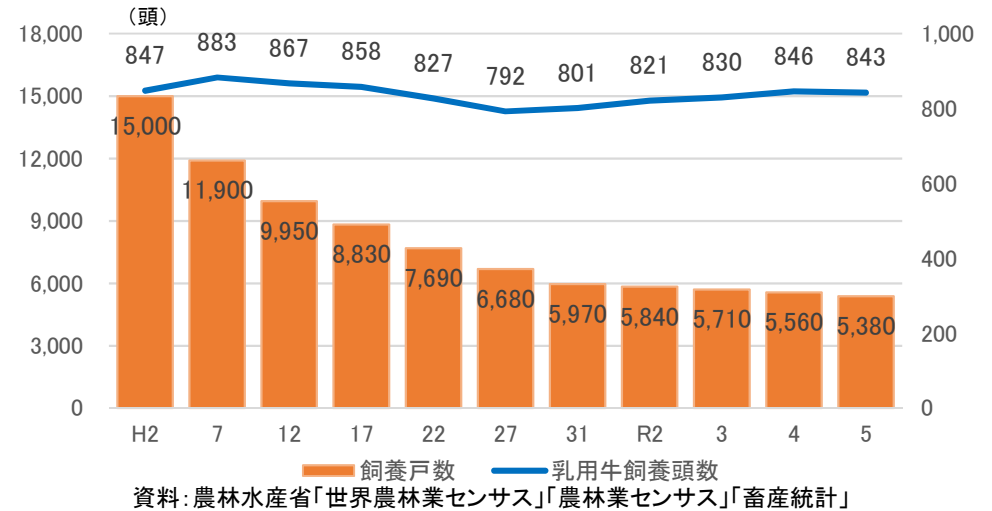
## (4) 耕地面積等の推移

- 耕地面積は、令和4年(2022年)で114万1千haと、近年ほぼ横ばいで推移。
- 乳用牛飼養頭数は近年増加傾向で、令和5年(2023年)は842,700頭。肉用牛は566,400頭。
- 豚は近年、増加傾向で推移し、令和5年(2023年)は759,600頭。

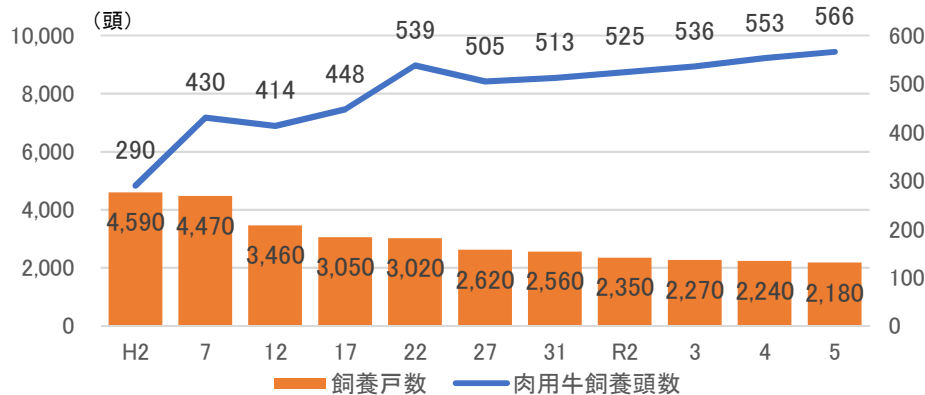
### ① 耕地面積の推移



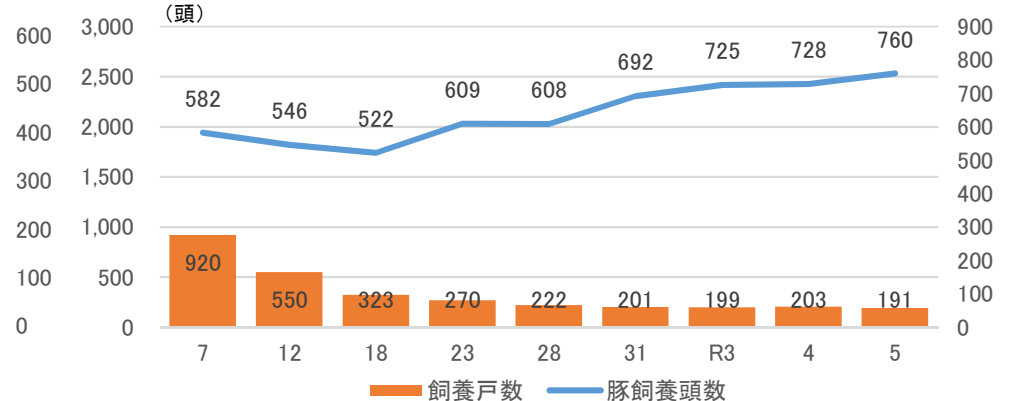
### ② 乳用牛飼養頭数の推移



### ③ 肉用牛飼養頭数の推移



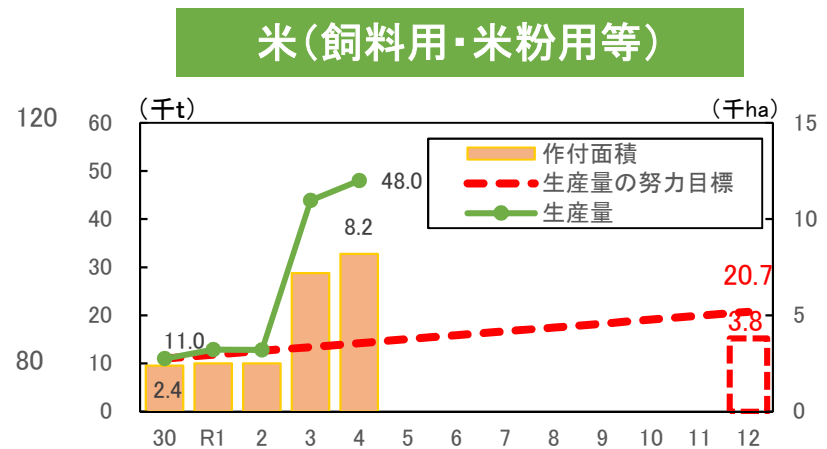
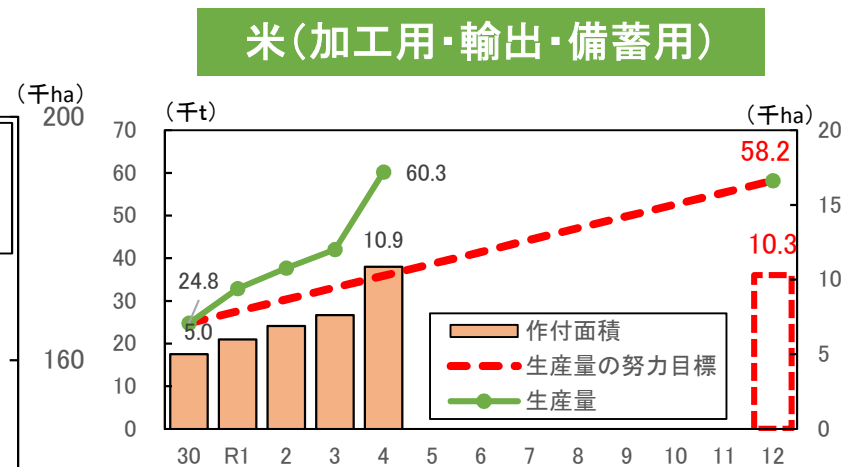
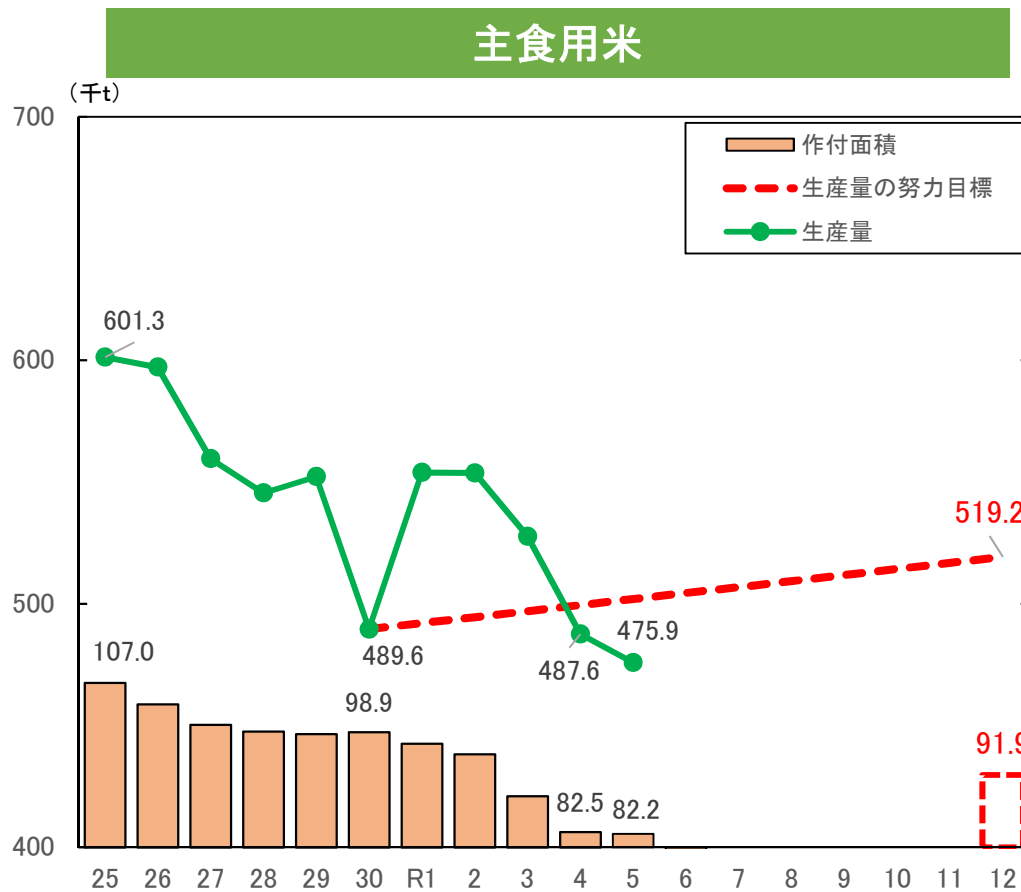
### ④ 豚飼養頭数の推移



# (5) 主要農産物の生産状況

## ① 米

- 主食用米の需要量の減少に伴い作付全体面積が減少する一方、飼料用米等は、主食用米からの作付転換や国産需要が増えていることから増加傾向。
- 生産量は、生産技術の普及や天候に恵まれたこともあり、令和元年産以降、作況は「やや良」や「良」で推移。

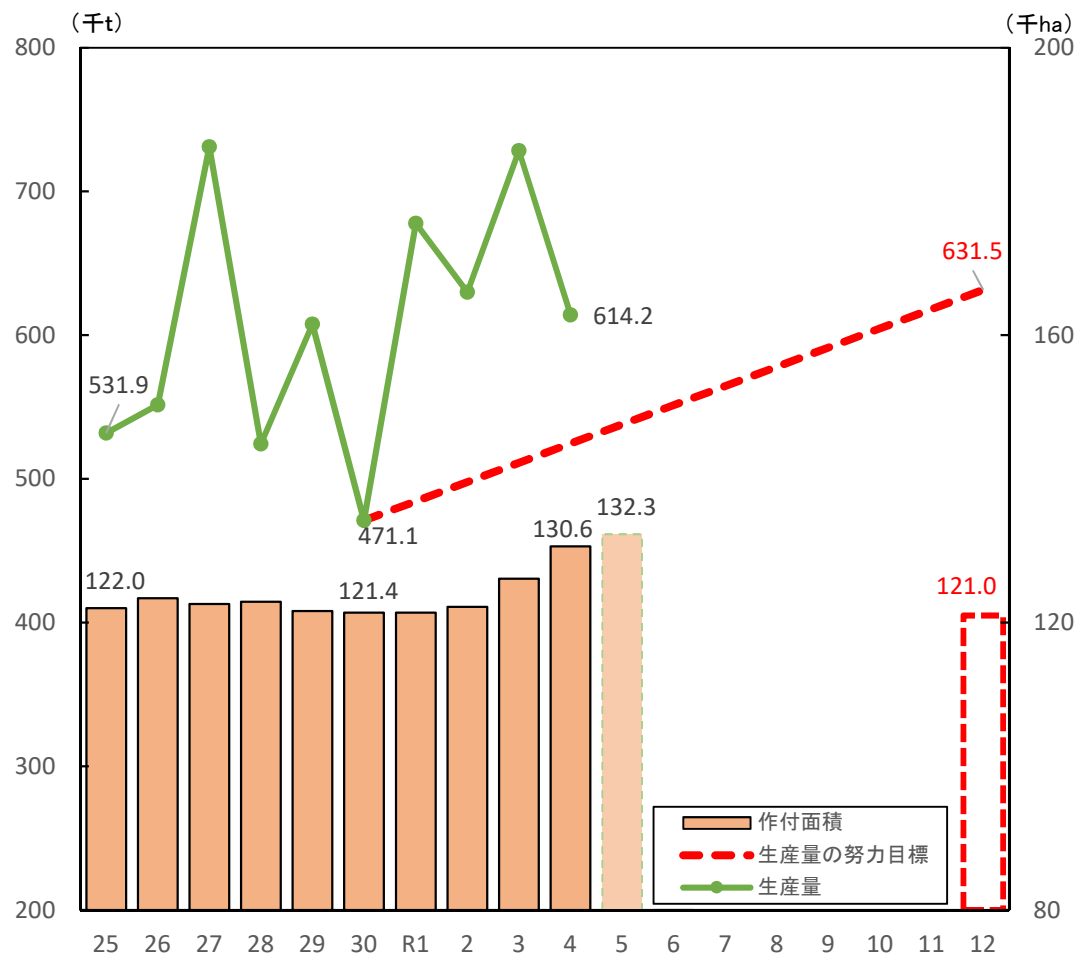


資料: 農林水産省「作物統計」、道農政部調べ

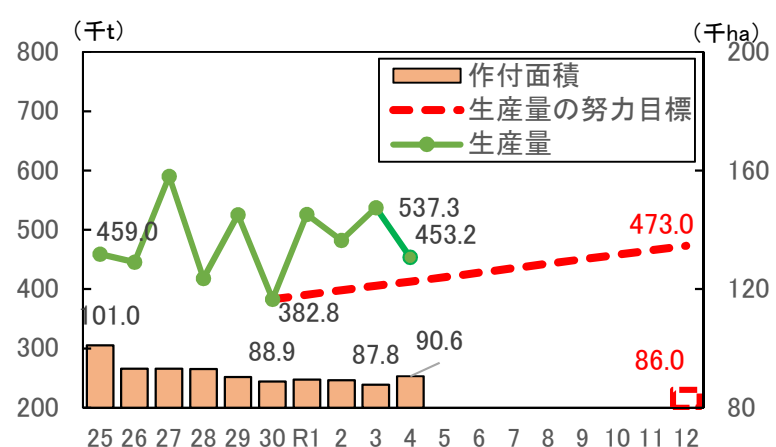
## ② 小麦

- 作付面積は、経営の規模拡大や労働力不足から、他作物より栽培管理が省力的な麦類へ作付転換により増加傾向。日本めん用で減少、パン・中華めん用で増加傾向。
- 生産量は気象による変動が大きいですが、近年は全般的に天候に恵まれ、高水準で推移。

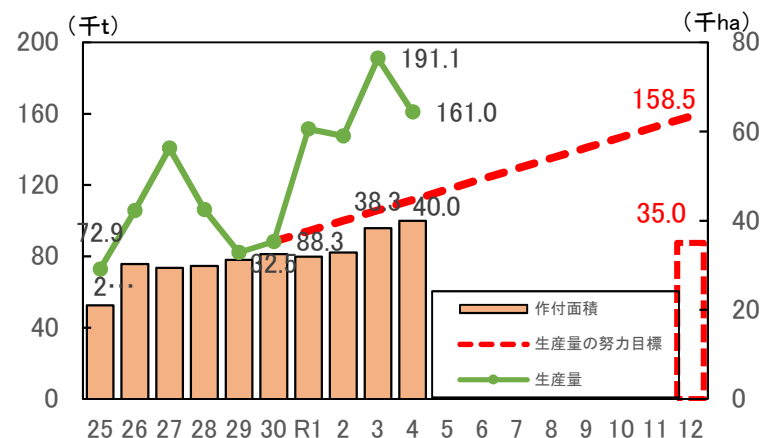
### 小麦



### 小麦(日本めん用他)



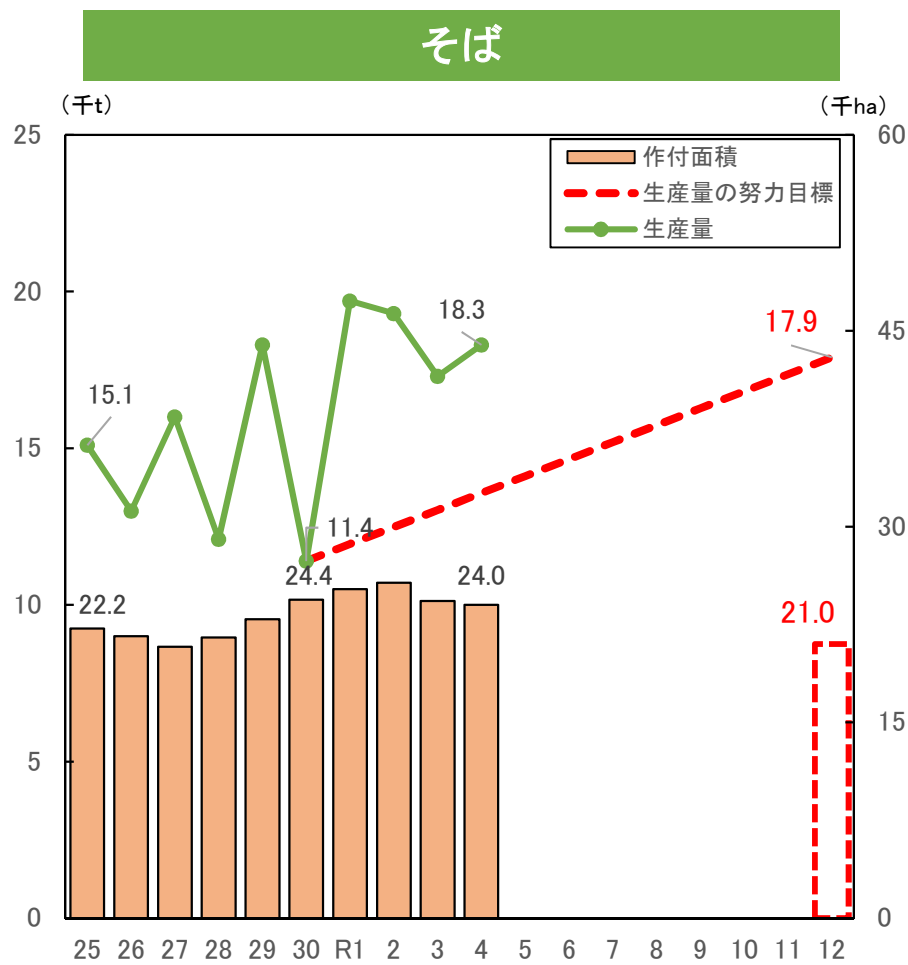
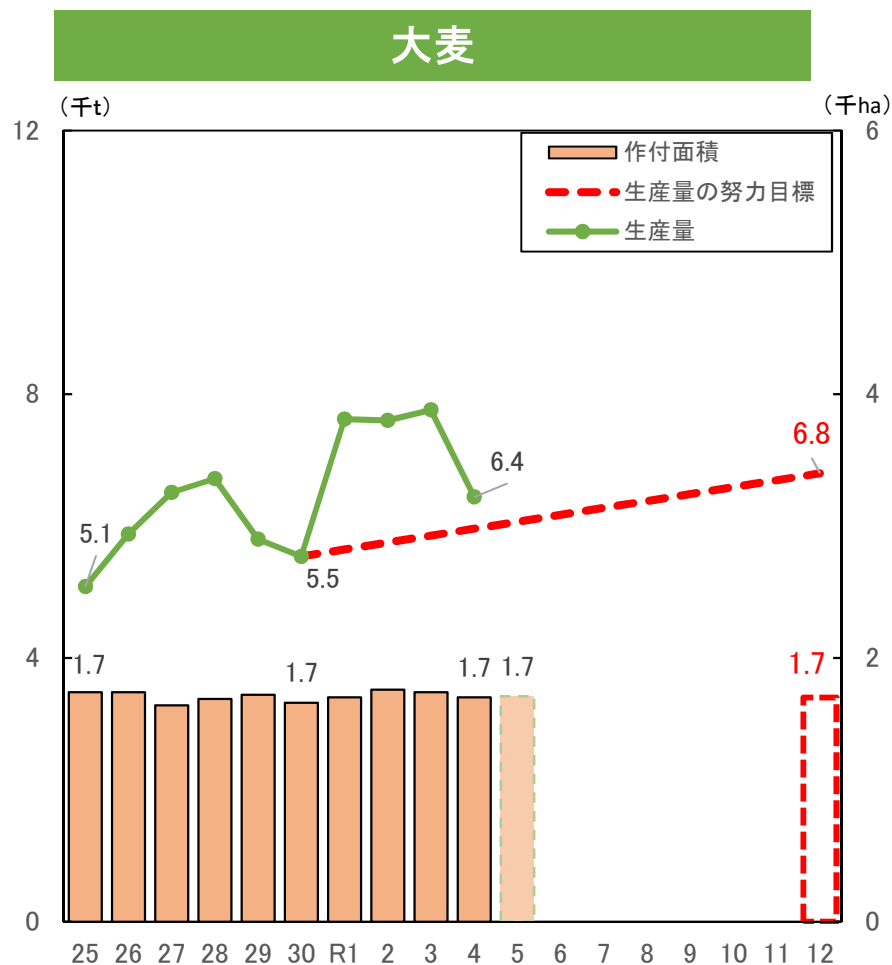
### 小麦(パン・中華めん用)



資料：農林水産省「作物統計」、道農政部調べ

### ③ 大麦・そば

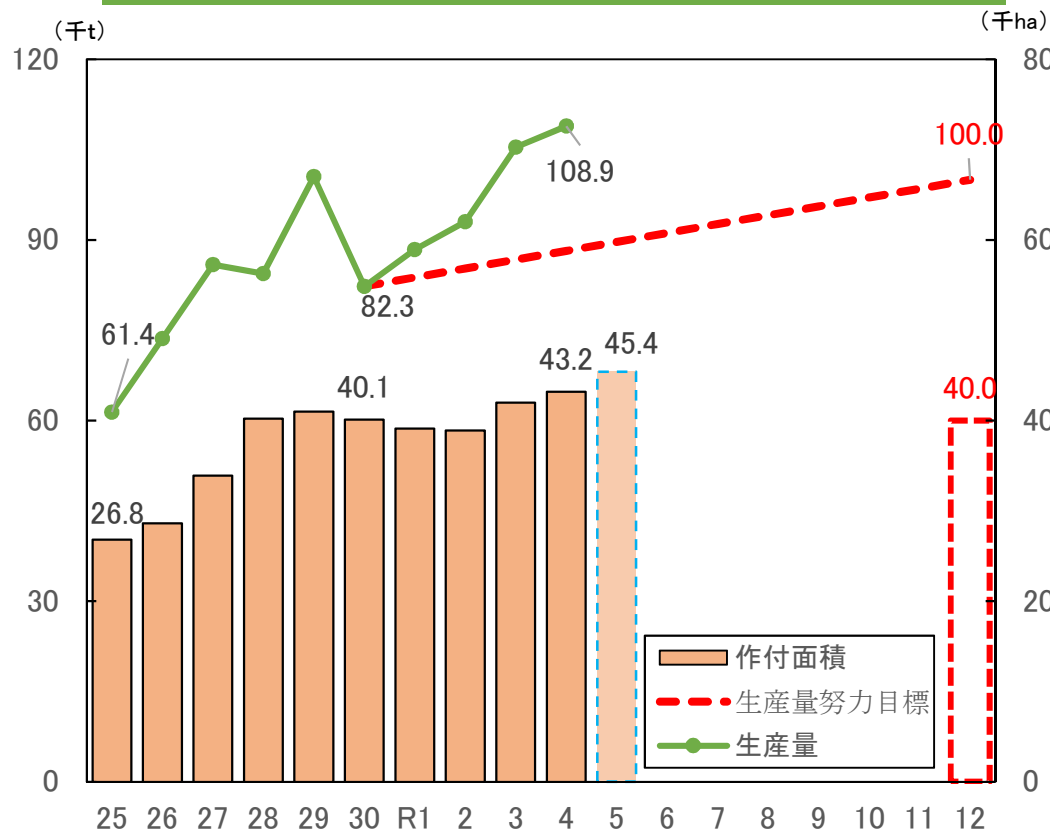
- 大麦の作付面積は、近年横ばいで推移しており、令和4年産(2022年産)の生産量は天候に恵まれたものの、7月の大雨の影響などにより前年に比べ減少。
- そばの作付面積は横ばいで推移しており、生産量は増加傾向に推移しているが気象による変動が大きい。



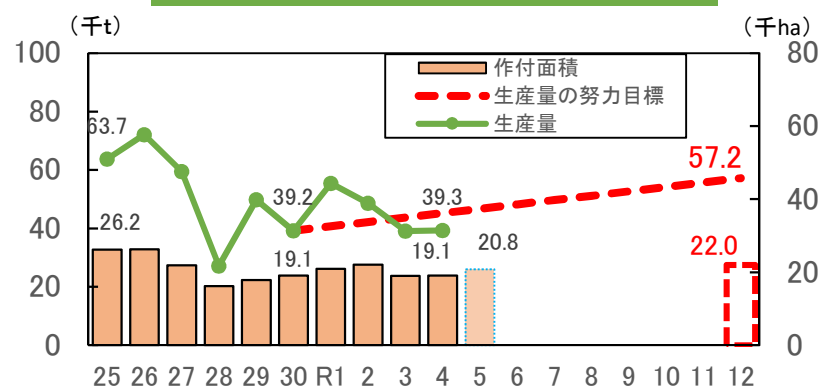
## ④ 豆類

- 大豆の作付面積は、近年の取引価格が高値で推移したことや、小豆からの作付転換が進んだことから、増加傾向。
- 小豆の作付面積や生産量は、令和3年度には大豆への転換が進み大きく減少したが、近年は、国の支援策の活用や契約栽培による計画生産の推進などから、横ばい傾向。
- いんげんの作付面積は、生産が安定しないこと等により減少傾向。

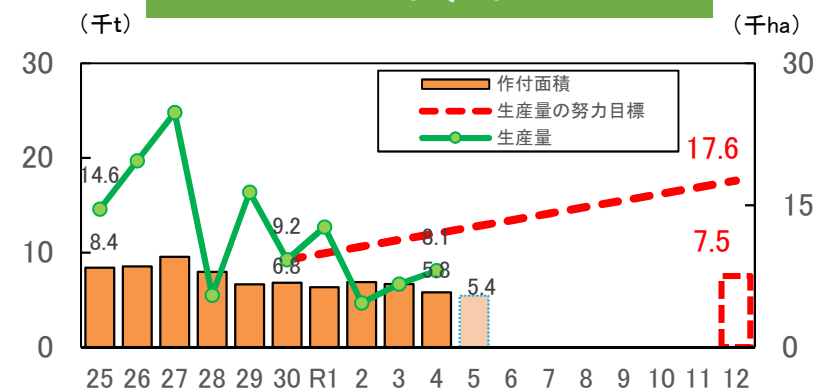
### 大豆



### 小豆



### いんげん

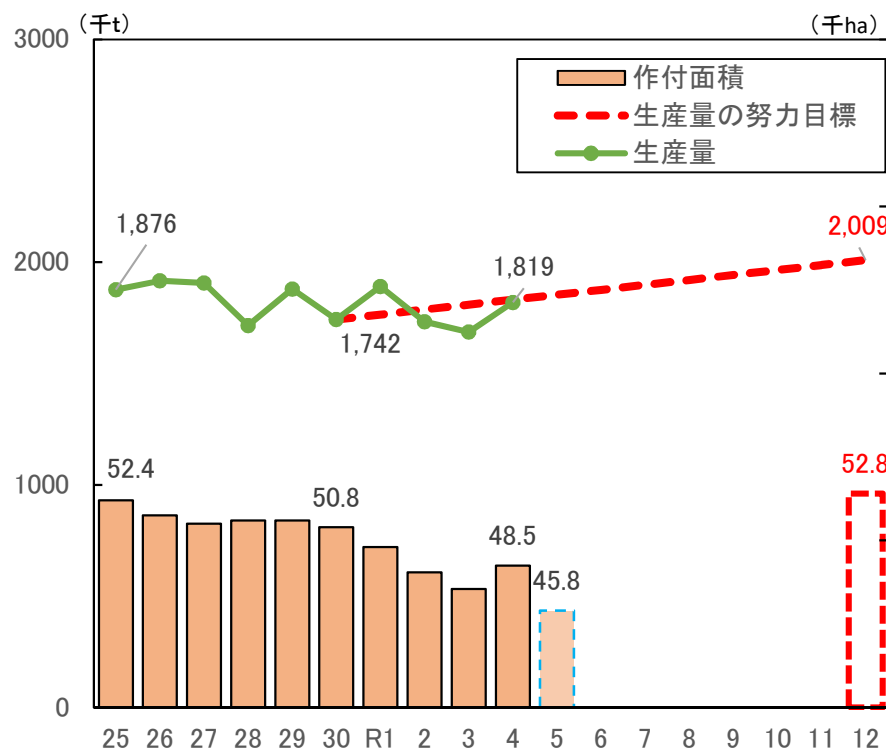


資料：農林水産省「作物統計」

## ⑤ 馬鈴しょ、てん菜、飼料作物

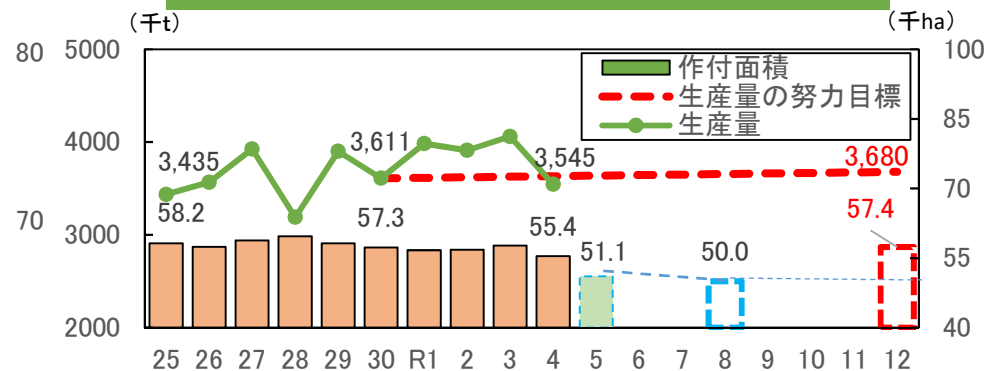
- 馬鈴しょ及びてん菜の作付面積は、労働力不足等から他作物への転換が進むなどにより減少傾向。
- 馬鈴しょの生産量は、近年、気象による変動が大きく、令和4年産(2022年産)は天候に恵まれ、前年に比べ増加。
- てん菜の生産量は、令和4年産(2022年産)は春先の天候不順や夏期の高温多湿による褐斑病などにより単収が減少。
- 飼料作物は、面積はほぼ横ばいで推移しているが、牧草より単収が高い飼料用とうもろこしの面積が増加。

### 馬鈴しょ

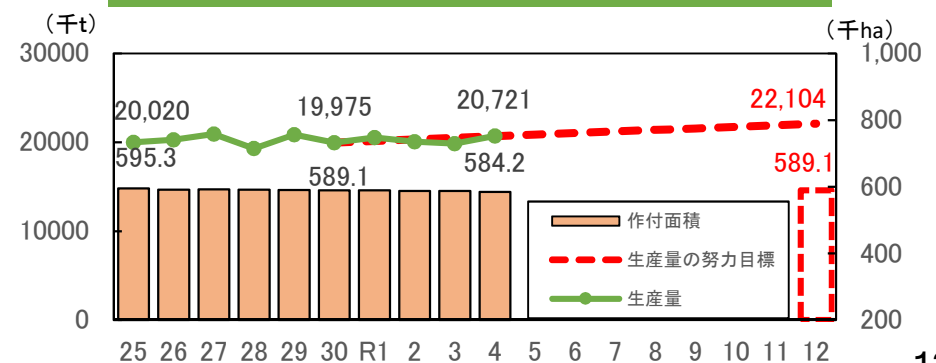


資料：農林水産省「作物統計」 ※R5は農政部調べ

### てん菜

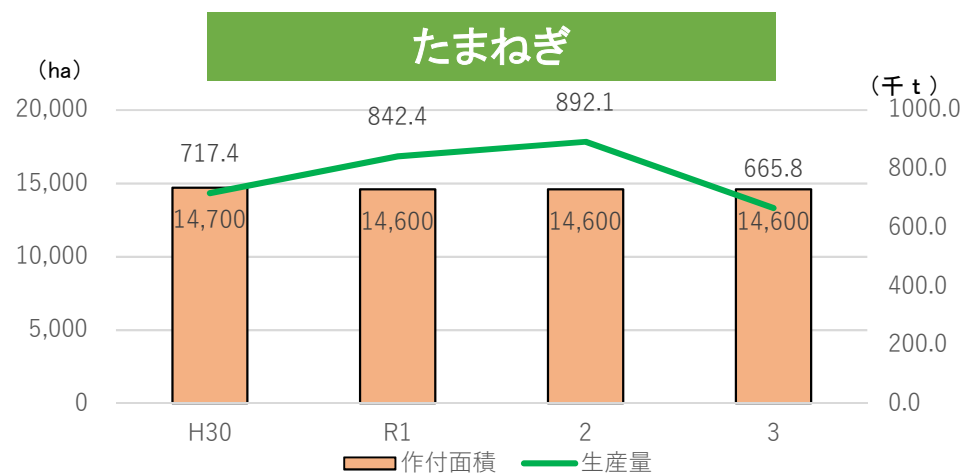
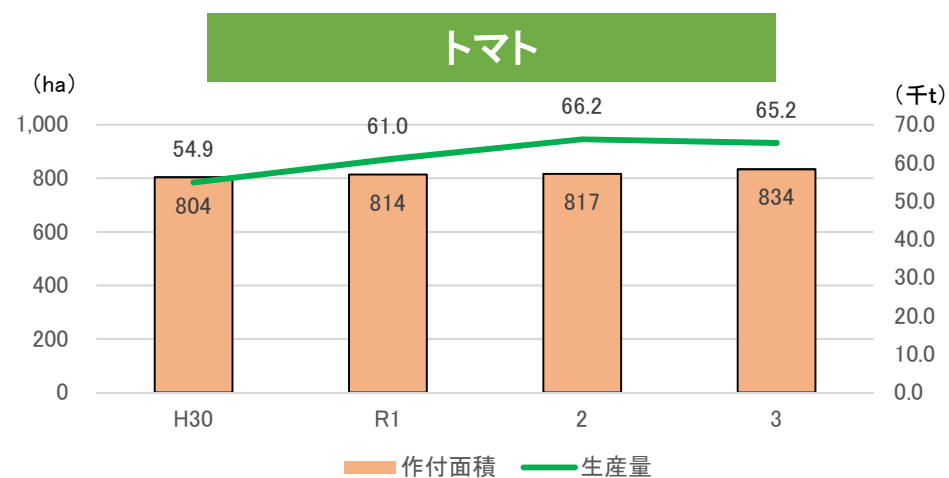
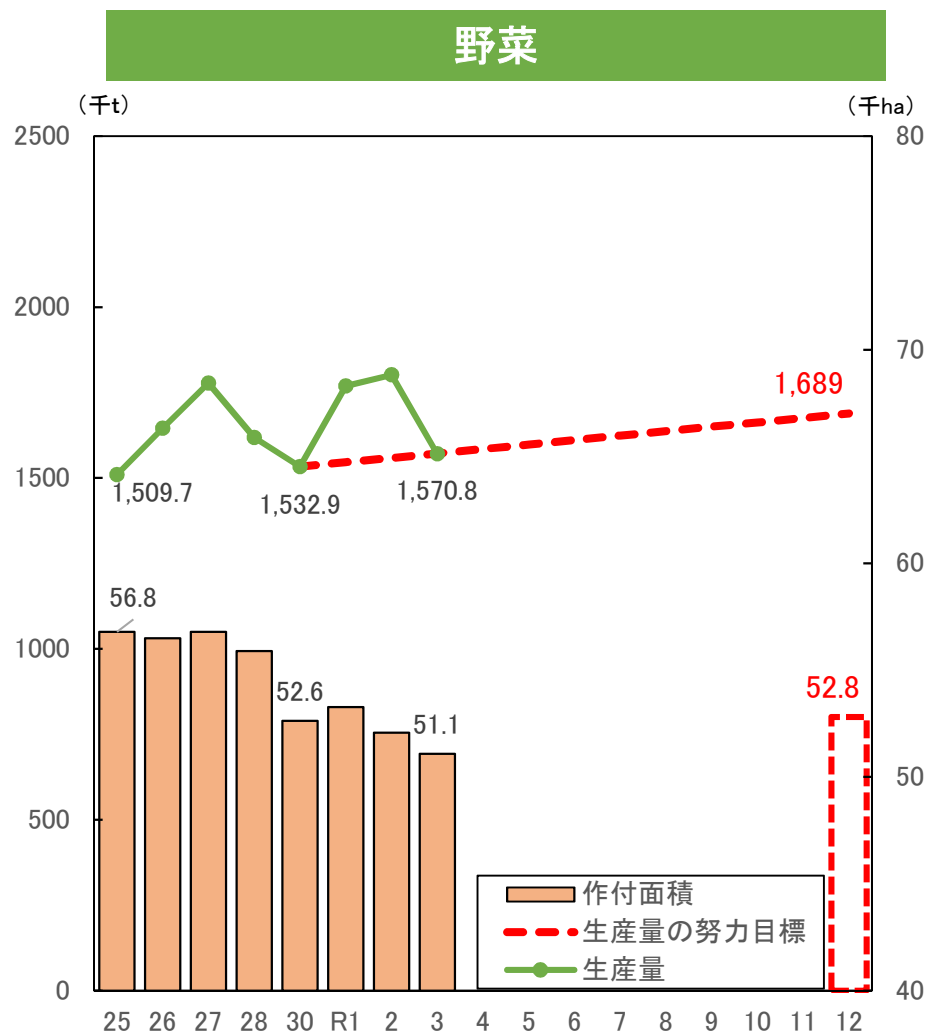


### 飼料作物



## ⑥ 野菜

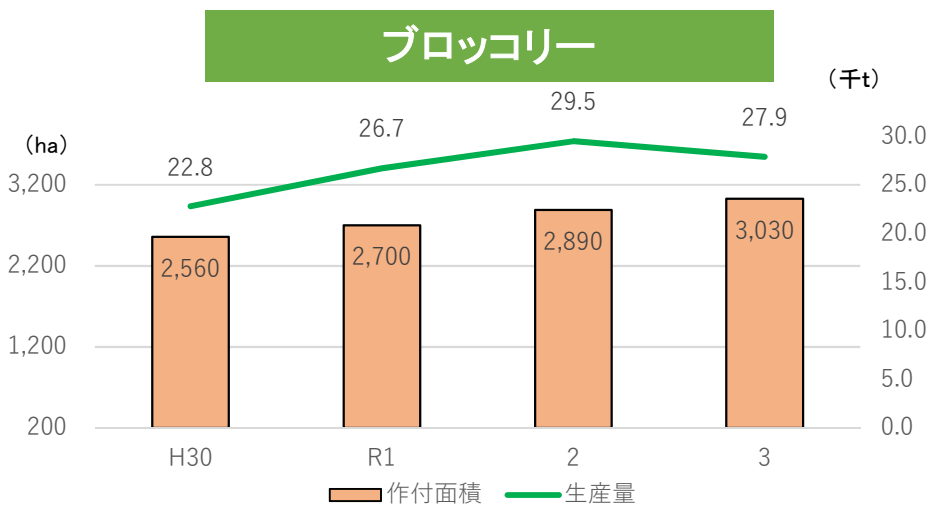
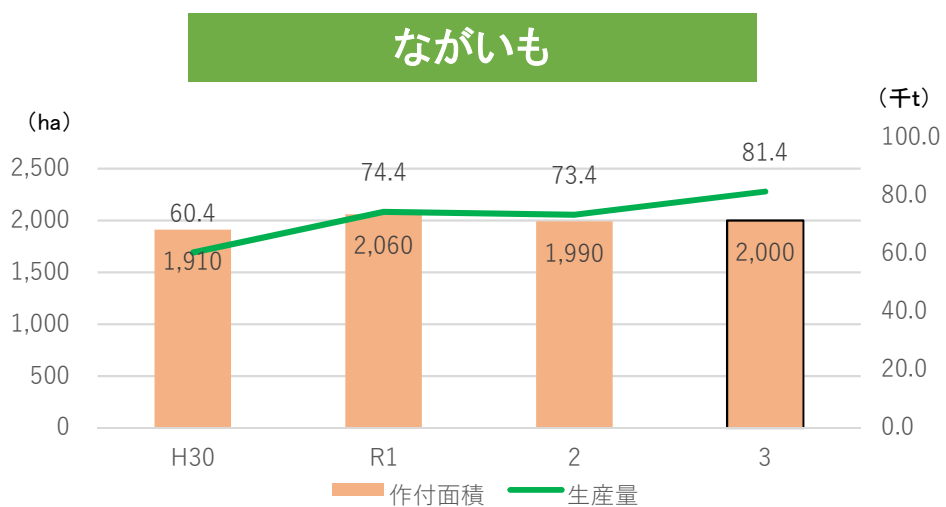
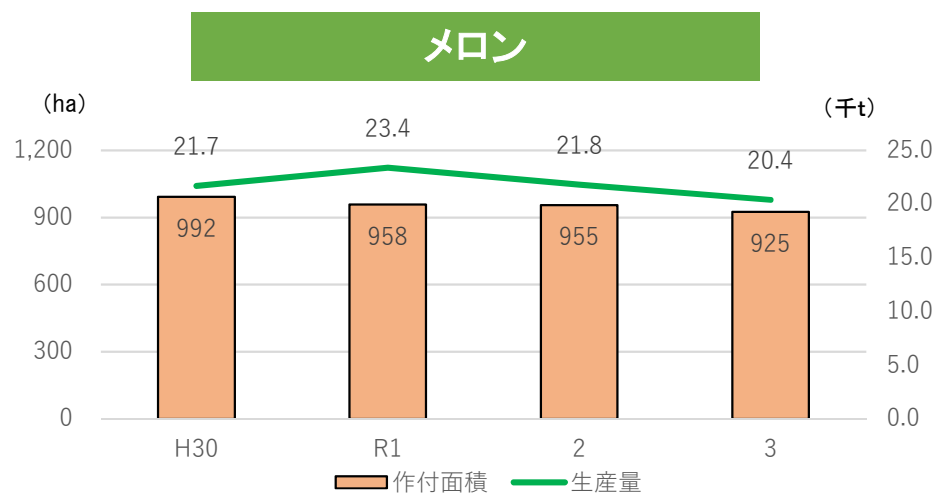
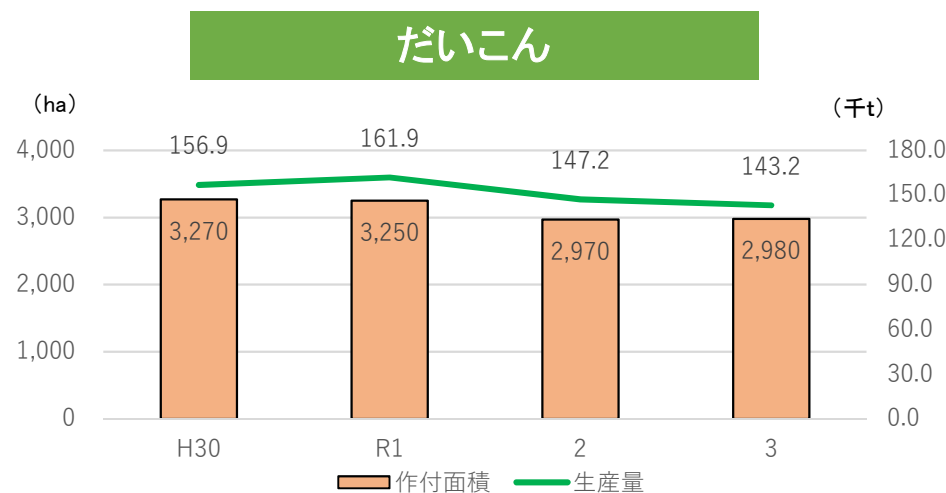
- 作付面積は、労働力不足等を背景に減少傾向で推移。
- 生産量は、ほぼ横ばいではある。トマトやたまねぎなどの主要品目についても横ばい。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

## ⑦ 野菜

○ 近年、労働力不足等を背景に、だいこん、メロン等の作付面積が減少傾向となる一方、ながいもやブロッコリーは増加傾向。

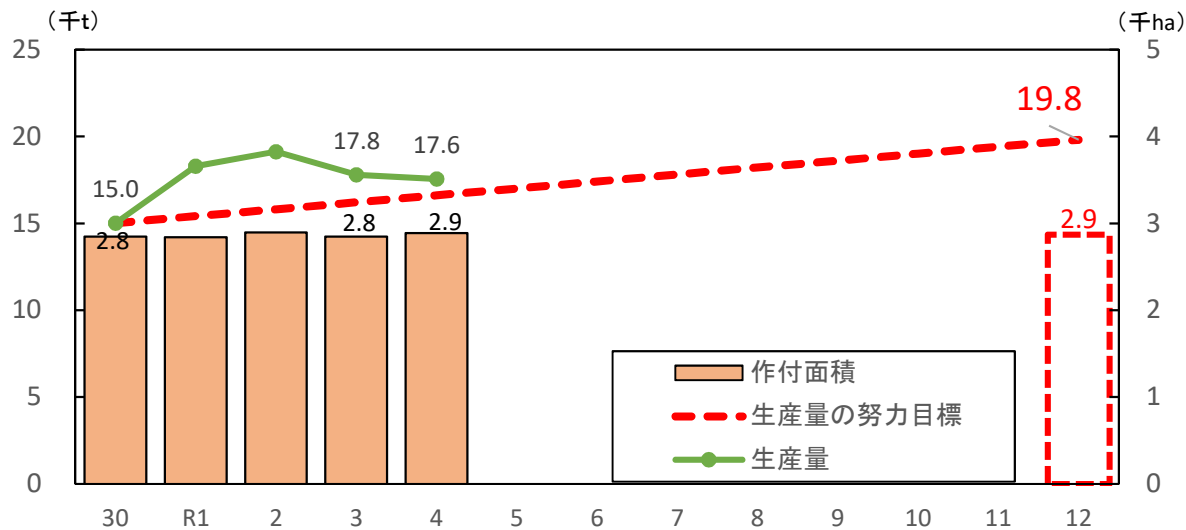




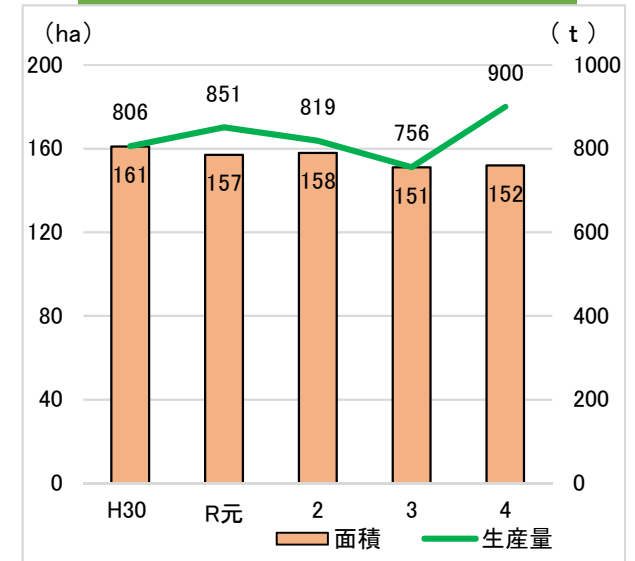
## ⑧ 果実

○ 果樹の栽培面積は近年横ばいで推移。すもも、りんご、おうとうはほぼ横ばい傾向となっている一方、ぶどうは増加傾向。

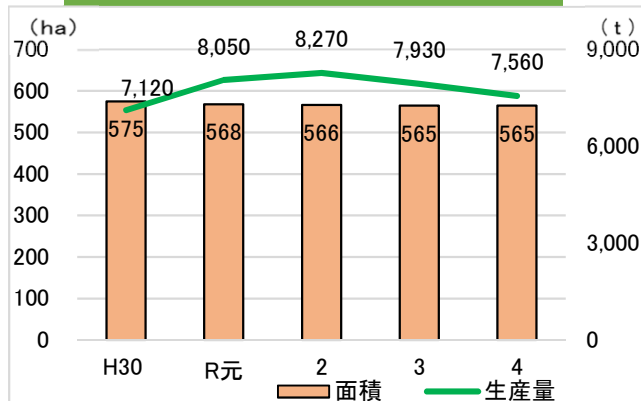
### 果実



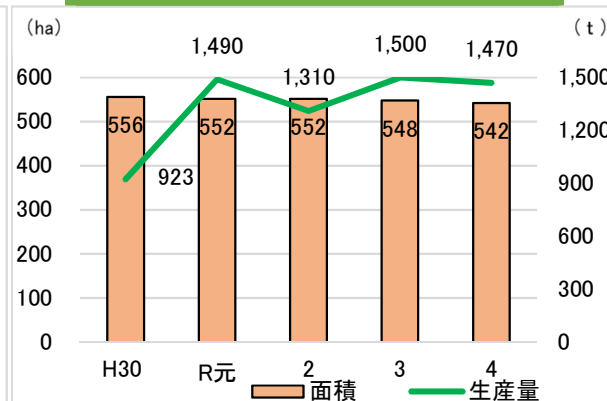
### すもも



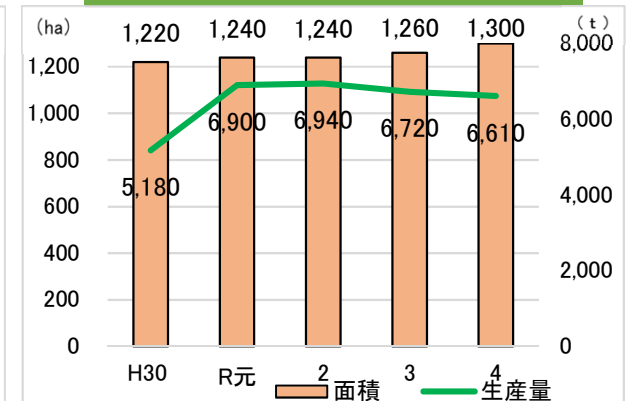
### りんご



### おうとう



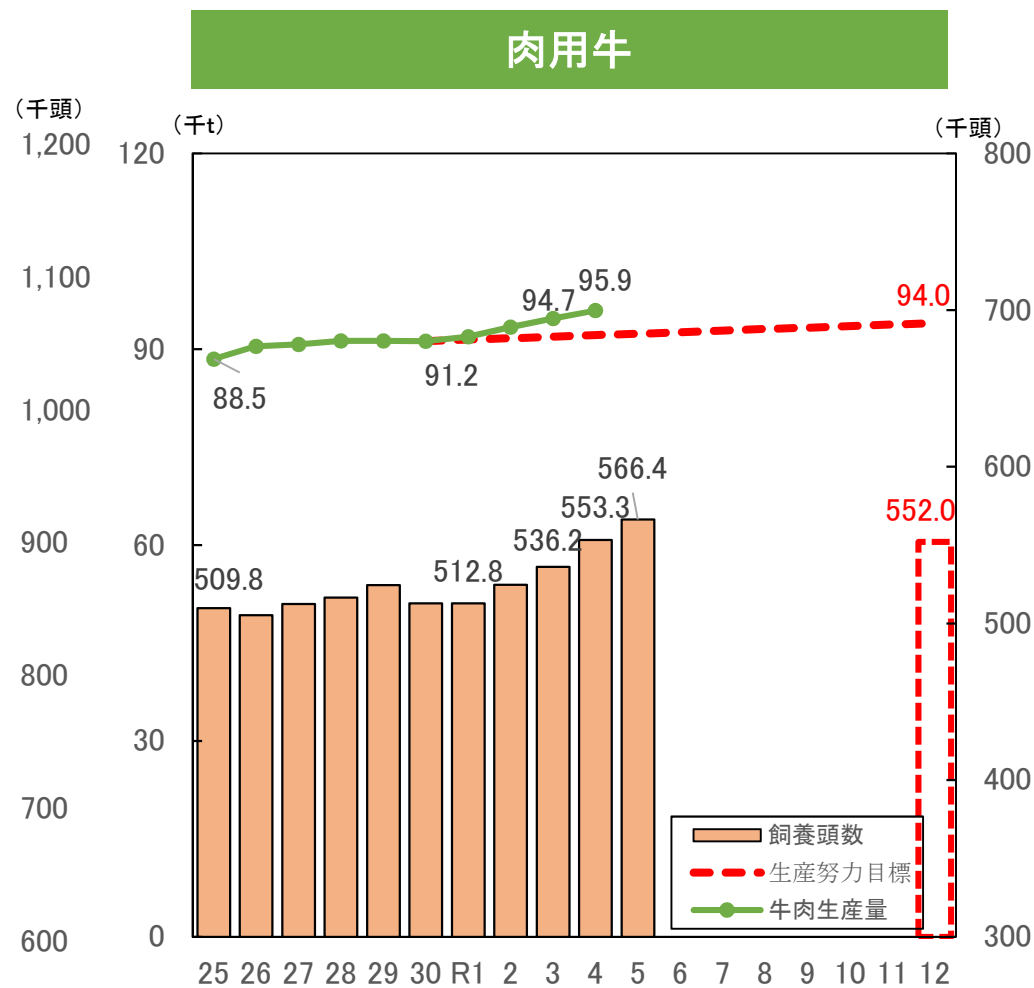
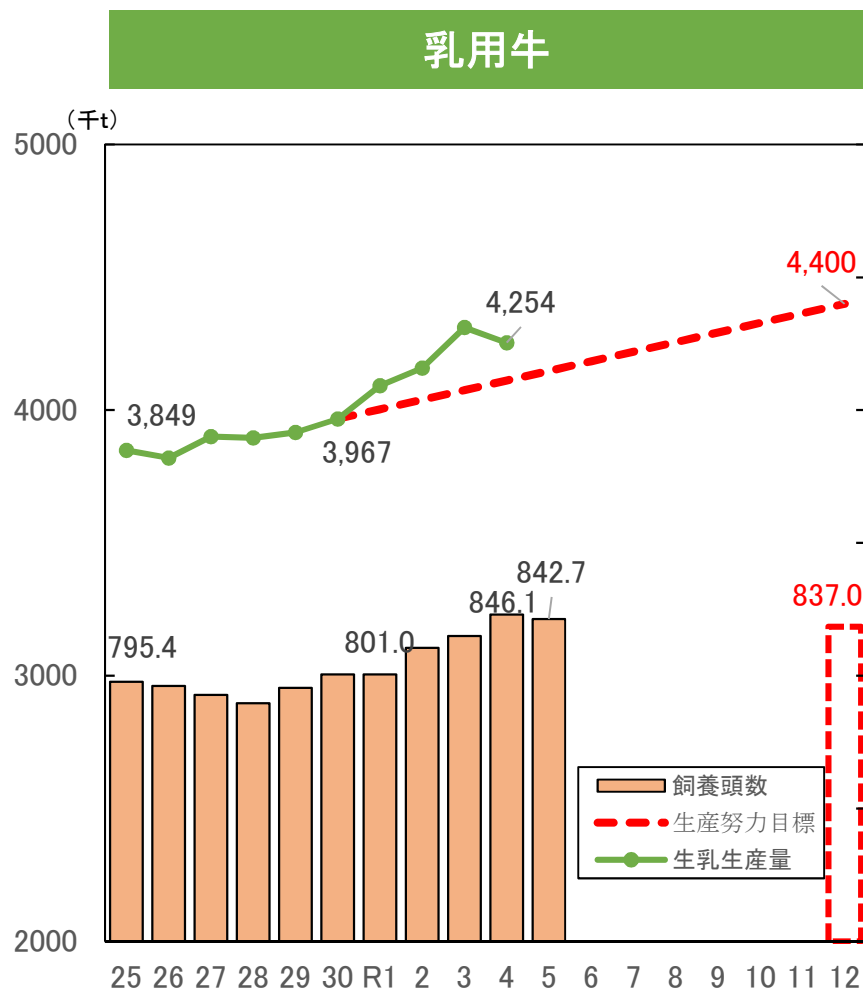
### ぶどう



資料: 農林水産省「耕地及び作付面積調査」「果樹生産出荷統計」、「特産果樹生産動態等調査」

## ⑨ 生乳・牛肉

- 乳用牛飼養頭数は、増加傾向だが、令和5年(2023年)は、前年比0.49減の842,700頭。  
生乳生産量は、平成28年度(2016年度)以降増加傾向で推移してきたが、生乳需給が緩和し、生産者団体に生産抑制の取組を実施したことにより、令和4年度は、前年度比98.5%の425万トン。
- 肉用牛飼養頭数は、近年、増加傾向で推移し、令和5年(2023年)は、566,400頭。  
牛肉(枝肉)生産量は、近年、増加傾向で推移しており、令和4年では前年比1.3%増の96,200トン。

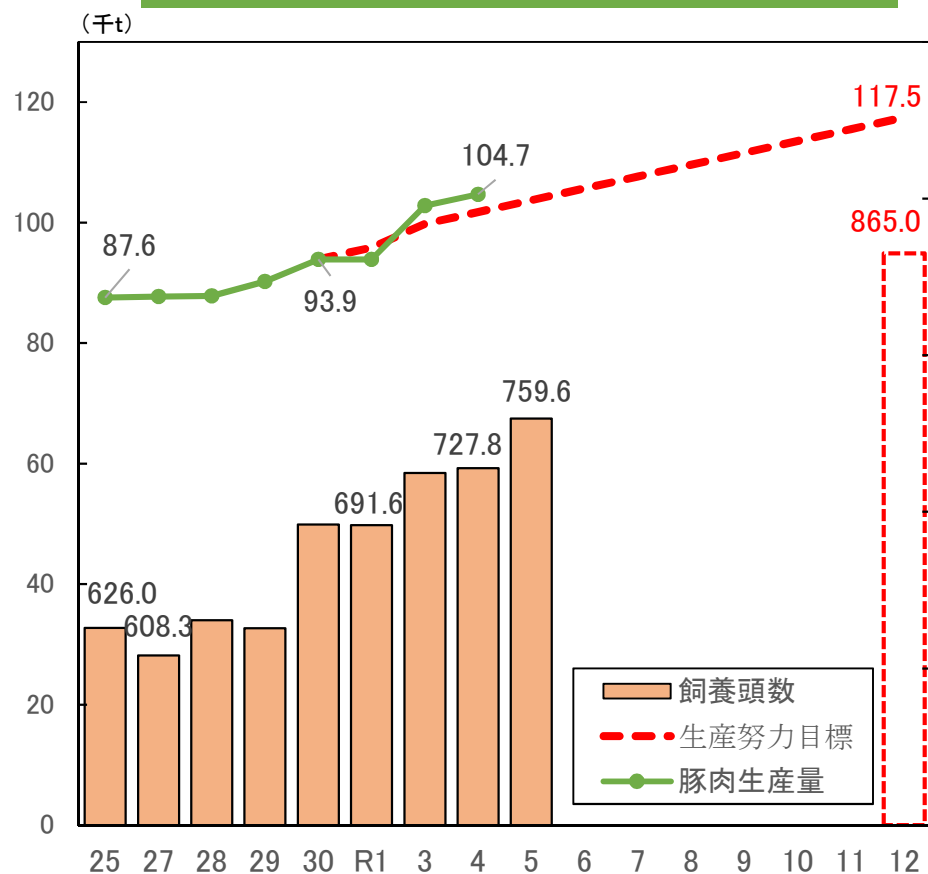


資料：農林水産省「世界農林業センサス」「農林業センサス」「畜産統計」「牛乳乳製品統計」、「食肉流通統計」

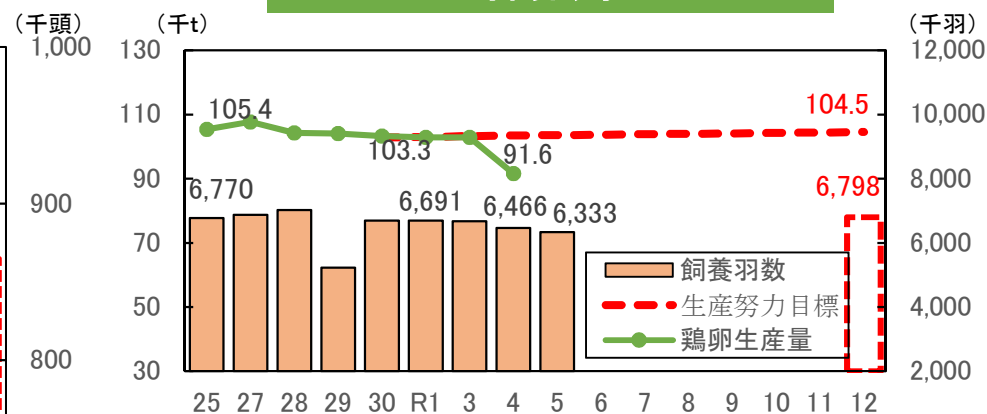
## ⑩ 豚肉・鶏卵・鶏肉

- 豚の飼養頭数は、近年、大規模化により増加傾向となっており、令和5年(2023年)は759,600頭。
- 採卵鶏飼養羽数は、近年、650万羽程度で横ばいで推移してきたが、令和4年の鶏卵生産量は鳥インフルエンザウイルスの発生の影響で大きく減少。
- 鶏肉生産は、企業的なブロイラー生産が主体で、近年の飼養羽数は530万羽程度で横ばい。

### 豚



### 採卵鶏



### ブロイラー



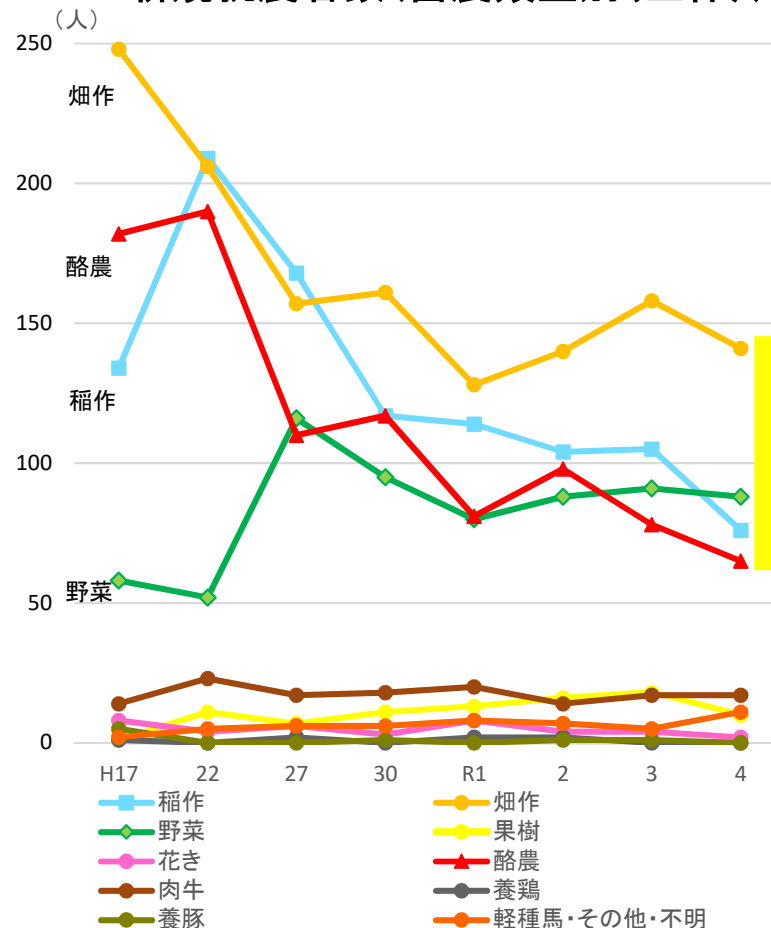
資料:農林水産省「農林業センサス」「農林業センサス」「畜産統計」「食肉流通統計」

# (6) 多様な担い手と人材の推移

## ① 新規就農者数の推移

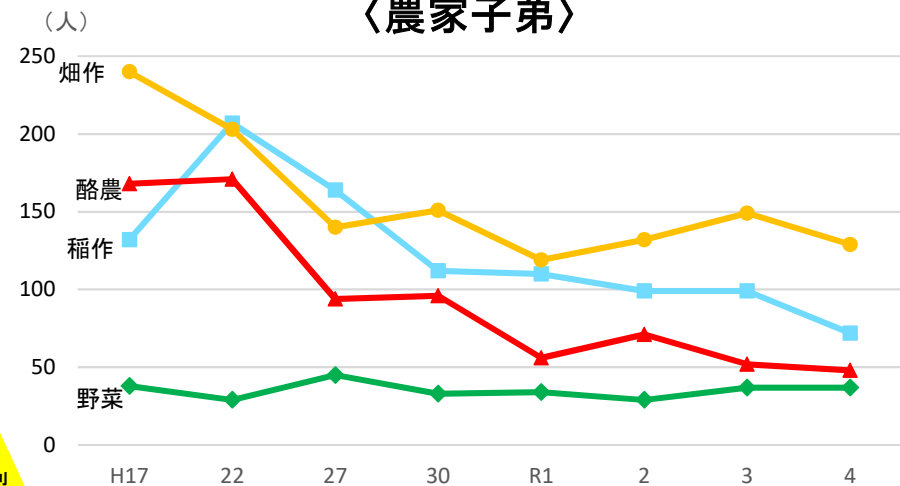
- 全体では畑作・酪農・稲作は、減少傾向で推移し、野菜は平成27年に増加して以降、減少傾向。
- 農家子弟では畑作・酪農・稲作は、減少で推移し、野菜は横ばいで推移。
- 新規参入は、酪農、稲作、畑作は横ばいで推移し、野菜は平成27年に増加して以降、減少傾向。

新規就農者数(営農類型別<全体>)

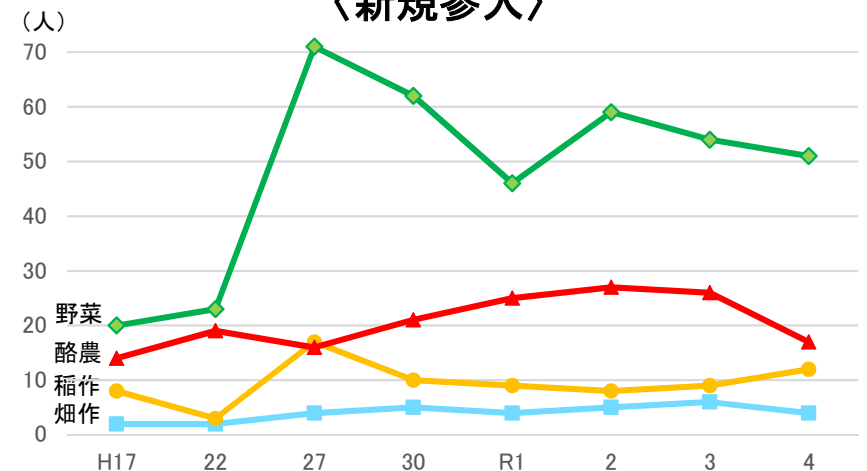


4営農類型  
抜粋

<農家子弟>



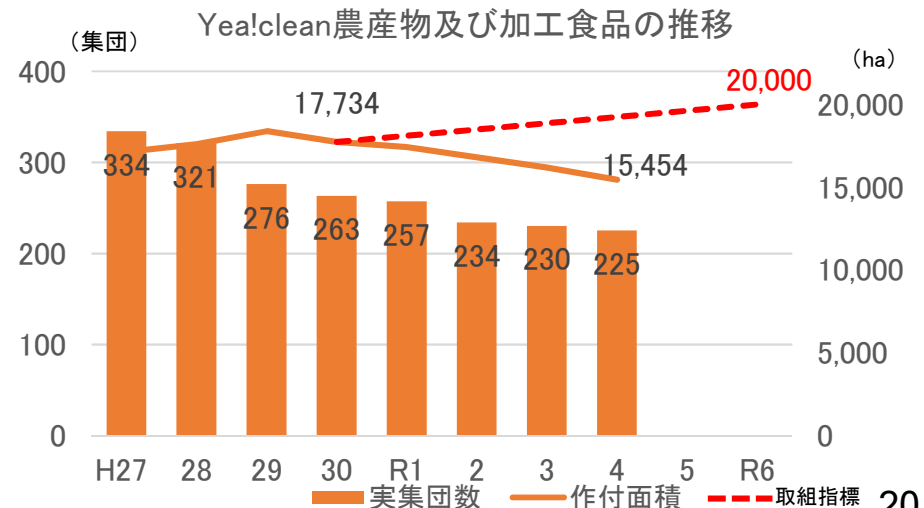
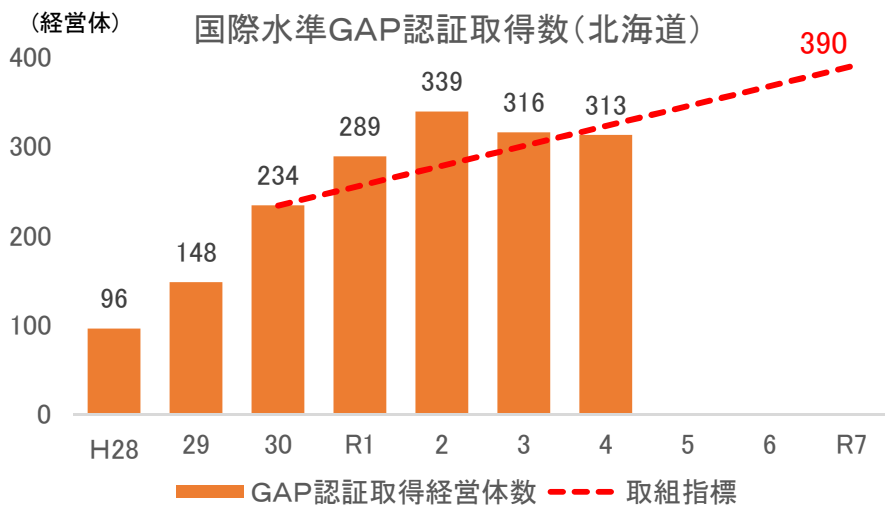
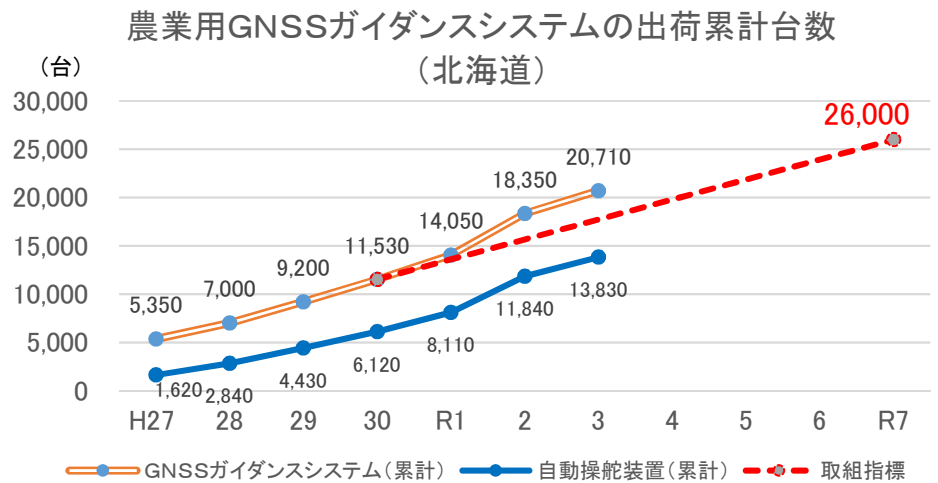
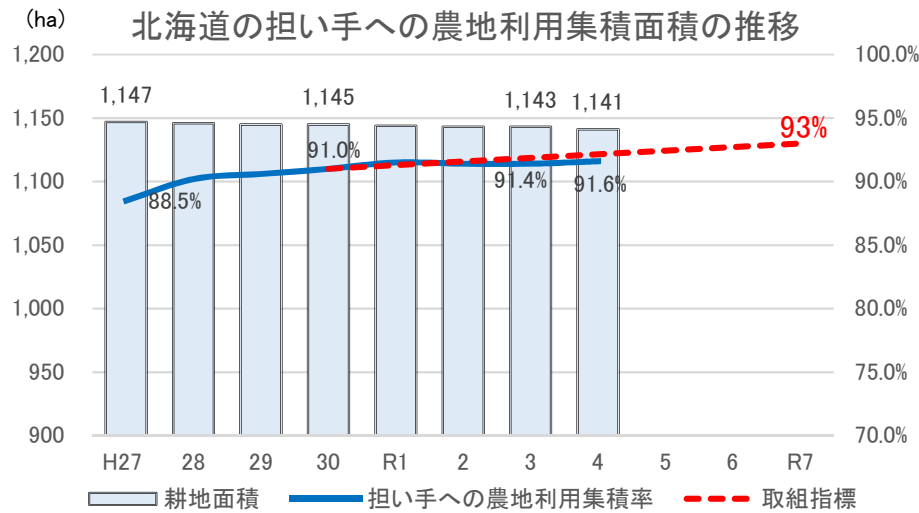
<新規参入>



資料: 北海道農政部「新規就農者実態調査」

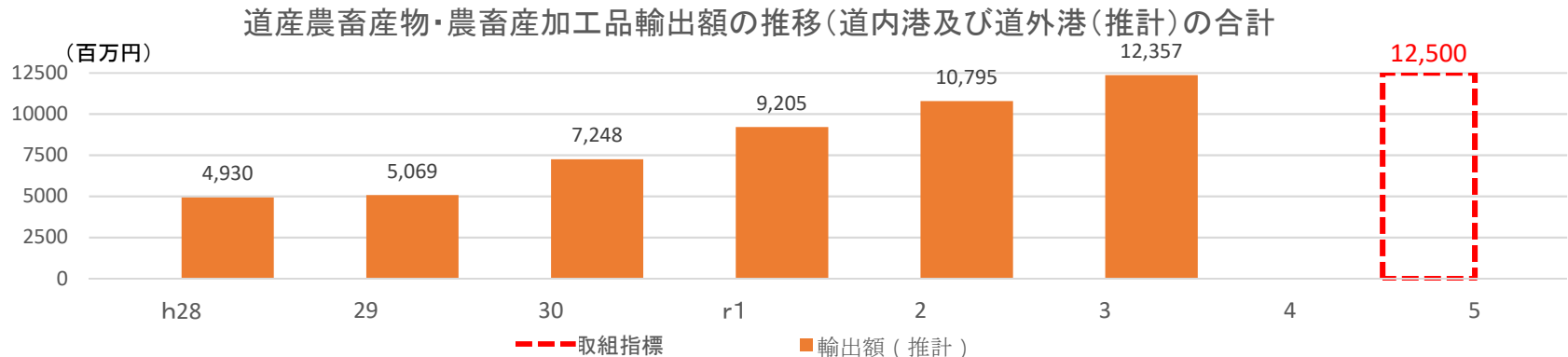
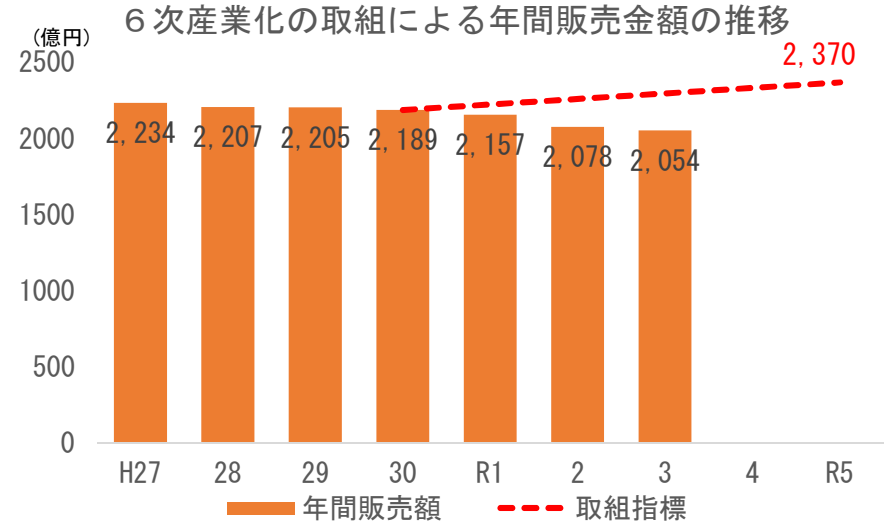
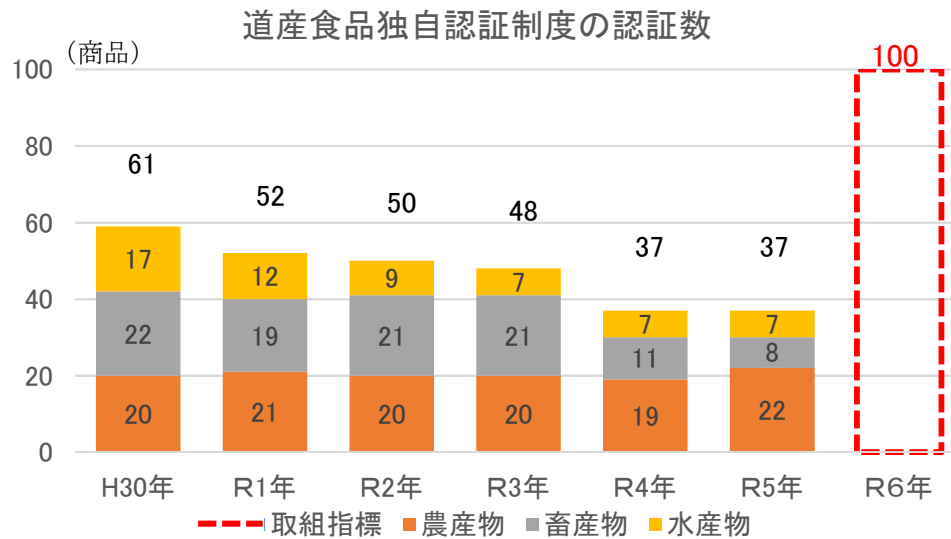
# (7) 持続可能で生産性の高い農業・農村の確立

- 担い手への農地利用集積率が91%以上で推移。
- GNSSガイダンスシステムの導入が増加するなどスマート農業の取組が進んでいる。
- 国際水準GAP認証の取得状況は、東京オリ・パラ以降減少傾向。
- YES!clean農産物の実集団数及び作付面積は減少傾向。



## (8) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

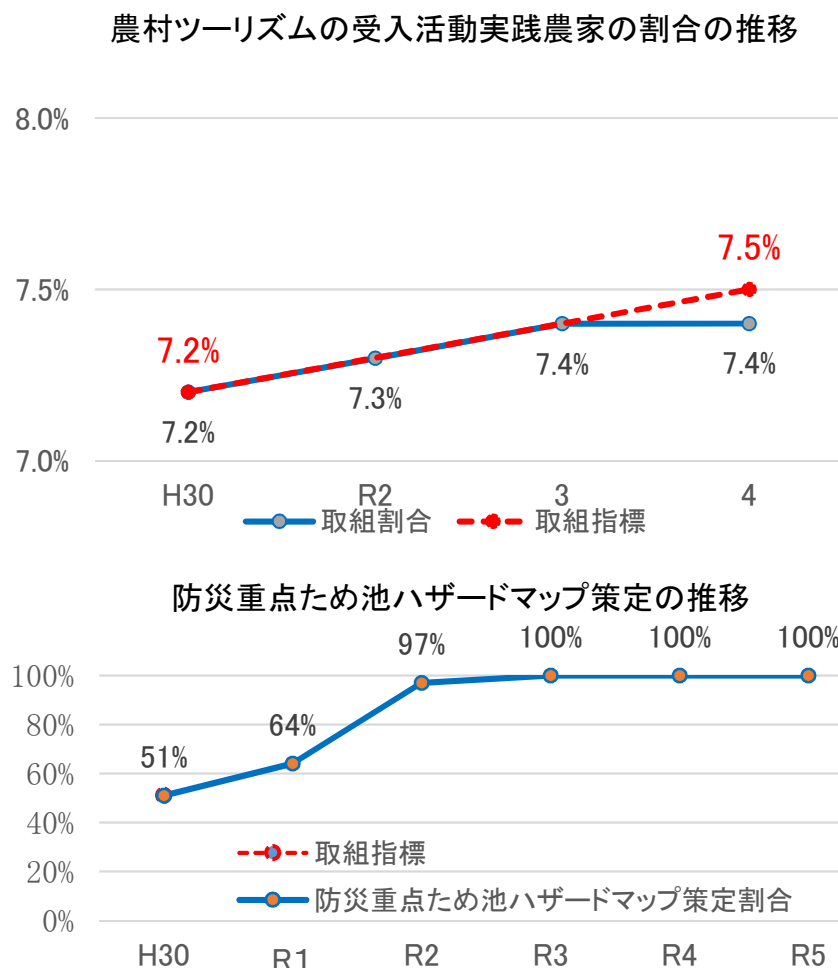
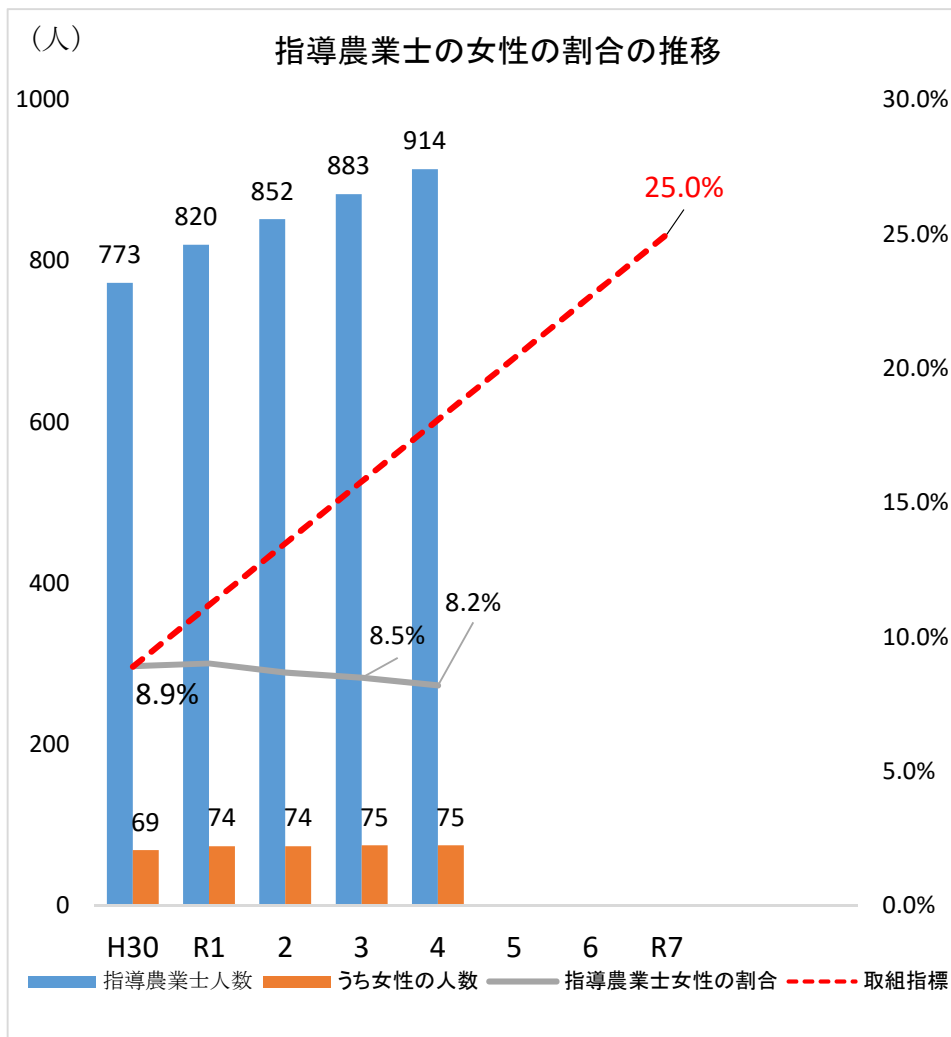
- 道産食品に対する消費者の信頼確保と北海道ブランドの向上を図るため、道産食品独自認証制度(きらりっぷ)や道産食品登録制度による取組を推進。
- 農産物の輸出は、新型コロナの影響で一時的に落ち込んだものの、その後は回復。品目別では、ながいも、ミルク等、米、たまねぎなどが多く、これら全体の8割を占める。
- 6次産業化では、新型コロナの影響による人流の抑制等で販売額が減少傾向。



資料:財務省「貿易統計」(道内港)及び農政部調査(道外港推計)

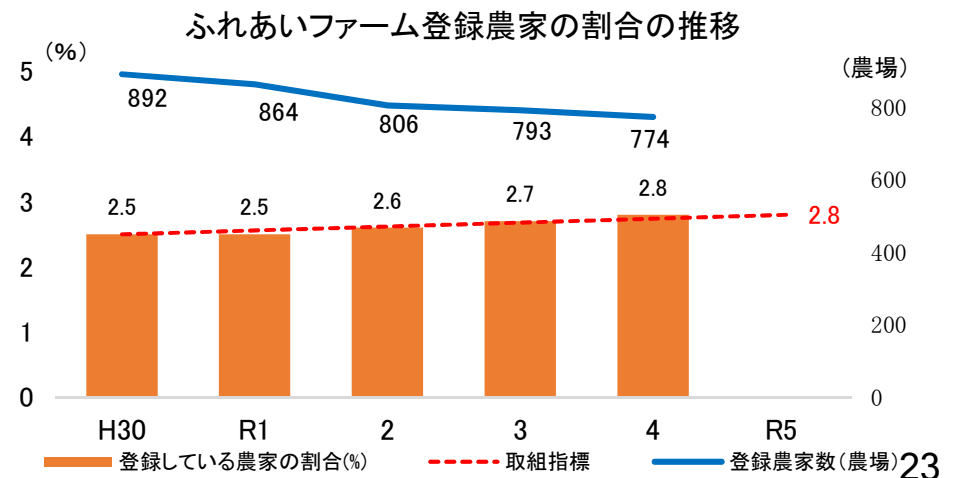
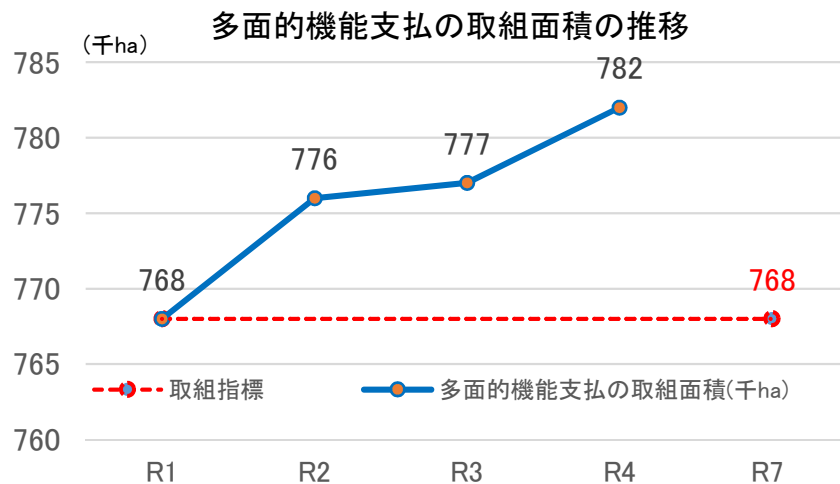
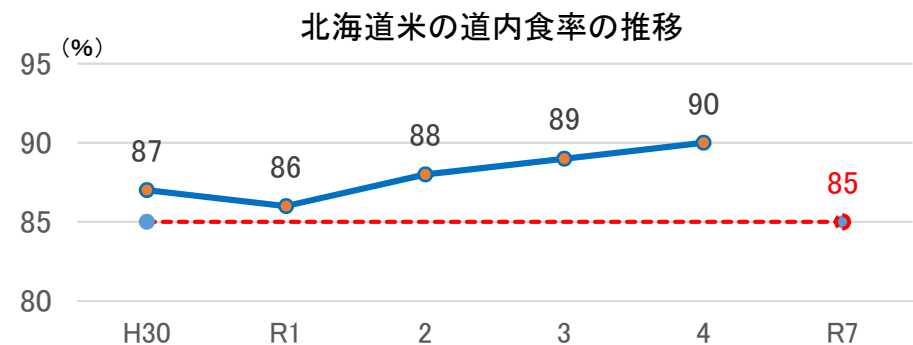
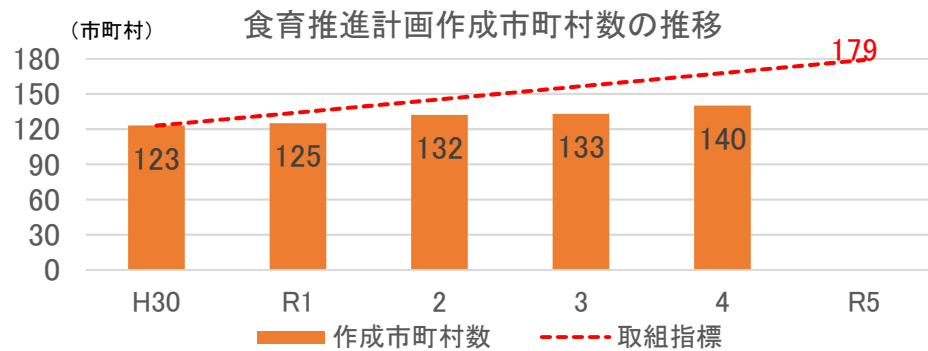
## (9) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- 指導農業士の女性の割合では、経営主の男性が推薦されることが多いなど女性の割合が伸び悩んでいる。
- 道内の農家に占める農村ツーリズムの受入農家の割合が停滞しているのは、農業者の高齢化や新型コロナウイルスの影響による受入意欲の低下などが要因と考えられる。
- 防災重点ため池ハザードマップの策定状況は100%達成。



## (10) 道民に理解に支えられる農業・農村の確立

- 市町村食育推進計画の作成では、策定が進んでいるものの、一部の市町村においては、人員不足などにより作成が遅れている。
- 北海道米の道内食率は、指標の85%以上を上回って推移しており、北海道米が広く評価されている。
- 多面的機能支払の取組面積では、農家戸数の減少などから、未取組地域での関心が高まっている。
- ふれあいファーム登録農家では、新規登録があるものの、離農や高齢がによる活動の中止が見られ、減少傾向。



(農場) 登録農家数(農場) 23



